

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
心理学		理学療法科／1年	2025／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位（15時間）	必須	龍谿 乗峰（実務経験有）
授業の概要				
心理学とはなにか。学問的に解説した後、学生に身近な心理的要素を例に出し、共にどんな心理が働くか見ていく。そして、自分について心理的分析してみて、自身の心理的特徴を理解し、恋愛場面や対人関係における心理を考えてみる。この講義の最後には心理の発達について講義しまとめへとつなげていく。				
[実務経験] 大学勤務				
授業終了時の到達目標				
特定の心理分野、アプローチにこだわらず、広く心理学の世界を紹介する。最終的には、クライアント（患者さん）の気持ちをくみ取れる態度を養成したい。				
回	テーマ	内 容		
1	心理学概論 心理学とは	講義、スライド		
2	知覚と心理	講義、スライド		
3	社会心理学の視点	講義、スライド		
4	認知心理学の視点、	講義、スライド		
5	性格と心理学	講義、スライド		
6	家族臨床心理学	講義、スライド		
7	カウンセリング心理学	講義、スライド		
8	心の病と臨床心理	講義、スライド		
9	試験・解説	試験		
10				
11				
12				
13				
14				
15				
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
必要に応じて提示する。		期末試験	100.0%	期末試験にて評価します

回	テ ー マ		内 容	
			作成者：山内 誠	
科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
倫理学		理学療法科／1年	2025／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位（15時間）	必須	山内 誠（実務経験有）
授 業 の 概 要				
先哲の基本的な考え方を手掛かりとして倫理学の基本を学習し、哲学や宗教のもつ意義を考える。 現代の倫理的課題について考察し、人間としての在り方生き方について考える。 [実務経験] 大学勤務				
授業終了時の到達目標				
「生命倫理（バイオエシックス）」における基礎的な考え方と具体的な諸論点を考察することを通じて、医療や福祉の現場と切り結ぶことの出来る倫理学的思考のあり方を考える。				
回	テ ー マ		内 容	
1	倫理とは何か		講義、スライド	
2	功利主義		講義、スライド	
3	義務論		講義、スライド	
4	インフォームドコンセント		講義、スライド	
5	QOLとケア		講義、スライド	
6	ターミナルケアとリハビリテーション		講義、スライド	
7	復習・総括		講義、スライド	
8	試験・解説		試験	
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
小川芳男 著『医療倫理学（3訂版）』北樹出版.		期末試験	100.0%	期末試験にて評価します。

回	テ　　マ		内　　　　容	
			作成者:松本　昇	
科　目　名		学科／学年	年度／時期	授業形態
物理学		理学療法科／3年	2026／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位（15時間）	必須	松本　昇（実務経験あり）
授　業　の　概　要				
ヒトの構造・運動学を科学的に分析するために必要な思考力の基盤となる物理学の知識を学ぶ。				
[実務経験] 病院勤務				
授業終了時の到達目標				
症状や現象を力学的視点から分析することができる。また、能力の基となる知識を修得する。 理学療法士国家試験問題を解けるようにする。				
回	テ　　マ		内　　　　容	
1	オリエンテーション		講義	
2	運動学的分析		講義	
3	円運動		講義	
4	円運動		講義	
5	力とは		講義	
6	ベクトルの合成と分解		講義	
7	剛体に働く力のつりあい		講義	
8	モーメント、トルク		講義	
9	剛体の重心、バランスの安定性		講義	
10	Newtonの運動法則		講義	
11	Newtonの運動法則		講義	
12	Newtonの運動法則		講義	
13	仕事とエネルギー		講義	
14	身体とてこ		講義	
15	試験・解説		試験	
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
教員作成資料		期末試験	100%	

回	テ ー マ	内 容
作成者：川崎 明浩		
科 目 名 健康管理学		学科／学年 理学療法科／1年
授業時間 90分		年度／時期 2025／前期
回数 15回		単位数（時間数） 2単位（30時間）
		必須・選択 必須
		担当教員 川崎 明浩（実務経験有）
授 業 の 概 要		
栄養学を中心に健康管理について学んでいきます。また、分子の動態から栄養学を解説します。 〔実務経験〕 病院ならびに介護老人保健施設等勤務		
授業終了時の到達目標		
栄養とは食物をとおして、人の健康状態を高めるものである。本講義では、健康的な食生活を送るために、正しい栄養学の知識を身につけるとともに、私たちの食生活の現状と健康づくりについて理解を深める。		
回	テ ー マ	内 容
1	栄養学概論（栄養学とは）	講義、スライド
2	栄養学総論（食生活の現状と健康）	講義、スライド
3	栄養素の機能（炭水化物）	講義、スライド
4	栄養素の機能（脂質）	講義、スライド
5	栄養素の機能（たんぱく質）	講義、スライド
6	栄養素の機能（無機質）	講義、スライド
7	栄養素の機能（ビタミン）	講義、スライド
8	栄養生理（食物の摂取）	講義、スライド
9	栄養生理（消化・吸収および排泄）	講義、スライド
10	栄養生理（エネルギー代謝）	講義、スライド
11	ライフステージと栄養（妊娠期・授	講義、スライド
12	ライフステージと栄養（成人期の栄	講義、スライド
13	病態と栄養（食事療法・栄養素の過	講義、スライド
14	栄養学と生化学の接点	講義
15	試験	試験
教科書・教材		評価基準
社団法人 全国調理師養成施設協会『栄養学』 科学技術庁資源調査会 編『五訂最新食品成分表』一橋出版. 社団法人 全国調理職業訓練協会『介護食士講座テキスト』 細谷憲政 著『人間栄養学』調理栄養教育公社. 荒川信彦・田島眞 編著『食品学』調理栄養教育公社.		評価率
		100.0%
		その他
		筆記試験

回	テ ー マ	内 容
---	-------	-----

作成者: 松本 昇

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
障害福祉論		理学療法科／1年	2025／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	福田 育弘（実務経験有）

授 業 の 概 要

障害者福祉に関する理念・価値・法制度及び障害構造等を体系的に理解するとともに障害をもつ人たちの生活・教育・雇用・施設環境等の実態を通して彼らを排除する社会構造への関心と支援のあり方を模索する。また、障害をもつ人たちがおかれている現状を把握し、「医学モデル」という狭義の捉え方ではなく、「生活・社会モデル」の視点からこの問題を考える。

〔実務経験〕施設勤務

授業終了時の到達目標

本講義では、障害者福祉全般についての理解を深めることを旨とし、ノーマライゼーションをはじめとする障害者福祉の理念、歴史、また制度など幅広い知識の習得に努める。また、現代社会が抱える様々な障害者福祉のニーズについて事例を通じて学習する。

回	テ ー マ	内 容
1	障害の概念	講義
2	障害者福祉の基本理念	講義
3	ノーマライゼーションとリハビリ	講義
4	障害者の実態（身体障害者）	講義
5	障害者の実態（知的障害者）	講義
6	障害者の実態（精神障害者）	講義
7	障害者福祉の施策Ⅰ	講義
8	障害者福祉の施策Ⅱ	講義
9	障害者福祉の関連施策	講義
10	事例研究Ⅰ	GW演習
11	事例研究Ⅱ	GW演習
12	事例研究Ⅲ	GW演習
13	事例研究Ⅳ	GW演習
14	まとめ	講義
15	試験	試験

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
担当教員作成の資料	レポート課題	100.0%	

回	テ ー マ	内 容
---	-------	-----

作成者: 松本 昇

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
統計学		理学療法科／3年	2026／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	松本 昇（実務経験有）

授 業 の 概 要

リハビリテーションの有用性を判断する上で、統計学の知識は必要不可欠である。統計学の始まりから現在までを概括し、統計で用いられる独特の用語や定義に基づく基本的分析方法を学ぶ。
 [実務経験] 病院勤務

授業終了時の到達目標

統計学の網羅的な体系、統計学の基礎的な考え方、標本と母集団との関係、およびデータの種類と表現形式について学ぶ。また、よく用いられる統計的な検定方法を学修し、その実際の適用の仕方について学ぶ。

回	テ ー マ	内 容
1	統計学の基礎	講義と演習
2	偏差、偏差平方和 分散 標準偏差	講義と演習
3	記述統計と推測統計	講義と演習
4	尺度 計数値 計量値	講義と演習
5	ヒストグラムと正規分布	講義と演習
6	対応のないt検定	講義と演習
7	対応のあるt検定	講義と演習
8	危険率 有意水準	講義と演習
9	χ^2 乗検定	講義と演習
10	相関分析	講義と演習
11	回帰分析	講義と演習
12	マンホイットニー検定	講義と演習
13	ウィルコクソン検定	講義と演習
14	総まとめ	講義と演習
15	試験・解説	試験

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
教員作成資料	期末試験	100%	

回	テ ー マ	内 容
---	-------	-----

作成者: 松本 昇

科 目 名	学科／学年	年度／時期	授業形態
人間関係とコミュニケーション	理学療法科／1年	2025／前期	講義・演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択
90分	15回	2単位（30時間）	必須
			担当教員 栗田 民恵

授 業 の 概 要

よりよい人間関係を築き、営むことは日常生活や専門職としての活動においてなくてはならないものである。本講義では人間関係について社会心理学や臨床心理学の視点から、講義だけでなく個人ワーク・グループワークを通して基礎的素養・応用知識を身につける機会とする。

〔実務経験〕 施設勤務

授業終了時の到達目標

社会と個人との関係性について説明できる
信頼関係を構築するための理論について説明できる
良好な人間関係をつくるための方法を具体的に述べることができる
良好な人間関係をつくるための方法を応用できる

回	テ ー マ	内 容
1	オリエンテーション・人間のこころ	講義
2	自分自身について考えてみよう	講義
3	コミュニケーションとは？①	講義
4	コミュニケーションとは？②	講義
5	なぜ人は他者に好感を持つのか？	講義・実技
6	自分の表現の仕方	講義・実技
7	集団の影響	講義・実技
8	ストレスの仕組みを考える	講義・実技
9	自分の気持ちの伝え方①	講義・実技
10	自分の気持ちの伝え方②	講義・実技
11	相手の話しの聴き方①	講義・実技
12	相手の話しの聴き方②	講義・実技
13	傾聴技法のロールプレイ	講義・実技
14	問題解決のロールプレイ	講義・実技
15	試験	試験

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
配布資料	期末試験	100%	

回	テ ー マ	内 容
---	-------	-----

作成者：浦辻 秀子

科 目 名	学科／学年	年度／時期	授業形態
コミュニケーション論	理学療法科／1年	2025／前期	講義・演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択
90分	15回	2単位（30時間）	必須
浦辻 秀子（実務経験有）			

授 業 の 概 要

点字や手話を通し、聴覚障害、視覚障害の方との交流を深め、かつ、障害を理解し、リハビリテーションに活かすことができる

〔実務経験〕 施設勤務

授業終了時の到達目標

「聴覚障害」を理解し、聴覚障害者への配慮や工夫ができる能力を養う。
点字学習を通じて視覚障害の患者さんとの意思の疎通を図り、そして障害の理解を促進する。

回	テ ー マ	内 容
1	あいさつ・伝えあう・名前（第1・2・3講座）手話の基礎知識	講義、実技（聴覚障害者をサポーターとして）
2	家族・趣味・数字（第4・5・6講座）手話の基礎知識	講義、実技（聴覚障害者をサポーターとして）
3	仕事・地図（第7・8講座）聴覚障害の基礎知識	講義、実技（聴覚障害者をサポーターとして）
4	1日・1ヶ月・1年の経過（第10・11・12講座）	講義、実技（聴覚障害者をサポーターとして）
5	日常生活（第15・17講座）医療用語、聴覚障害者の生活	講義、実技（聴覚障害者をサポーターとして）
6	医療用語・医療場面模擬通訳演習、福祉制度	講義、実技（聴覚障害者をサポーターとして）
7	医療場面模擬通訳演習、医療現場における手話通訳	講義（実技演習をもとに）実技（聴覚障害者をサポーターとして）
8	点字・講義：視覚障害理解、見えないとは？、50音表の見方	点字板使用方法、アイマスク体験①
9	点字基本2：障害理解、読み書き移動手段、50音、数字	点字紙に50音練習、アイマスク体験②
10	点字基本3：障害理解、読み書き手引き、数字とアルファベット	名前・住所を書く。アイマスク体験③
11	点字基本4：障害理解、案内、日常生活活動、数字とアルファベット	単語練習、アイマスク体験④
12	点字分かち書き①：視覚障害理解、手引き、案内、日常介助	疾患名を書く、アイマスク体験⑤
13	点字分かち書き②：「視覚障害理解、手引き、案内、日常介助	医療関連単語、アイマスク体験⑥
14	視覚障害者への援助方法	演習
15	試験	試験
教科書・教材		評価基準
		評価率
		その他

回	テ　　マ	内　　　　容	
必要に応じて提示する		期末試験	100.0% サポーターの聴覚障害者に対する姿勢及びコミュニケーション能力。

回	テ ー マ	内 容
---	-------	-----

作成者:宮川 孝芳

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
解剖生理学 I		理学療法科／1年	2025／通年	講義・演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	60回	4単位（120時間）	必須	宮川 孝芳（実務経験有）

授 業 の 概 要

人体の運動器の基礎について取り扱う。解剖学的用語、骨の解剖学的指標、関節の構造、筋の起始・停止・作用・神経支配を紹介する。座学・演習で骨模型や実際の人体を触診しながら実施し、人体の立体構造を理解する。

授業終了時の到達目標

骨の各部位について説明できる
筋の起始・停止・作用・神経支配について説明できる
関節の名称・運動方向について説明できる

回	テ ー マ	内 容
1	解剖学総論	講義
2	人体の階層性と細胞	講義
3	骨学総論	講義：骨の微細構造
4	骨学各論①鎖骨・肩甲骨・上腕骨	講義・演習
5	骨学各論②橈骨・尺骨・手部	講義・演習
6	骨学各論③寛骨・大腿骨・膝蓋骨	講義・演習
7	骨学各論④脛骨・腓骨・足部	講義・演習
8	骨学各論⑤頭部・胸郭	講義・演習
9	骨学各論⑥脊柱	講義・演習
10	骨学触診①上肢の骨	演習
11	骨学触診②下肢の骨	演習
12	骨学触診③体幹の骨	演習
13	骨の成長	講義
14	骨代謝	講義
15	骨学確認テスト（実技）	骨模型を基に口頭試問を行う
16	骨学確認テスト（実技）	骨模型を基に口頭試問を行う
17	骨学確認テスト（筆記試験）	筆記試験
18	関節学総論	講義
19	関節学各論①上肢の関節	講義・演習
20	関節学各論②下肢の関節	講義・演習
21	関節学各論③体幹の関節	講義・演習
22	関節学確認テスト（筆記試験）	筆記試験
23	筋学総論①	起始・停止と運動方向
24	筋学総論②	筋の種類
25	筋学総論③	筋の微細構造と滑走説、収縮様式
26	筋学総論④	運動神経と筋収縮
27	上肢筋の運動を支配する神経	腕神経叢の構造
28	筋学各論①頸部	頸部の運動に関与する筋
29	筋学各論②肩甲帯	肩甲帯の運動に関与する筋
30	筋学各論③肩関節	肩関節の運動に関与する
31	筋学各論④肘関節・前腕	肘関節・前腕の運動に関与する筋

回	テ ー マ	内 容		
32	筋学各論⑤手関節	手関節の運動に関与する筋		
33	筋学触診①肩甲骨	肩甲骨の運動に関与する筋		
34	筋学触診②肩関節	肩関節の運動に関与する筋		
35	筋学触診③肘関節・前腕	肘関節・前腕の運動に関与する筋		
36	筋学触診④手関節・手指	手関節・手指の運動に関与する筋		
37	筋学確認テスト①（筆記試験）	上肢の筋に関する筆記試験		
38	下肢の運動を支配する神経	腰神経叢・仙骨神経叢の構造		
39	筋学各論⑥股関節-1	股関節の運動に関与する筋		
40	筋学各論⑥股関節-2	股関節の運動に関与する筋		
41	筋学各論⑦膝関節	膝関節の運動に関与する筋		
42	筋学各論⑧足関節	足関節の運動に関与する筋		
43	筋学各論⑨足部	足部の運動に関与する筋		
44	筋学触診⑤股関節	股関節の運動に関与する筋		
45	筋学触診⑥膝関節	膝関節の運動に関与する筋		
46	筋学触診⑦足関節	足関節の運動に関与する筋		
47	筋学触診⑧足部	足部の運動に関与する筋		
48	筋学確認テスト②（筆記試験）	下肢の筋に関する筆記試験		
49	体幹の運動を支配する神経	横隔神経、肋間神経		
50	筋学各論⑩体幹前面	体幹の運動に関与する筋		
51	筋学各論⑪体幹後面	体幹の運動に関与する筋		
52	筋学各論⑫頭部	頭部の運動に関与する筋		
53	筋学各論⑬表情筋・咀嚼筋	表情・咀嚼に関与する筋		
54	筋学触診⑨体幹前面	体幹の運動に関与する筋		
55	筋学触診⑩体幹後面	体幹の運動に関与する筋		
56	筋学確認テスト③（筆記試験）	体幹の筋に関する筆記試験		
57	骨学まとめ	講義		
58	関節学まとめ	講義		
59	筋学まとめ	講義		
60	期末試験・解説	筆記試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
配布資料 坂井建夫 他『プロメテウス解剖学アトラス解剖学総論/運動器系』 林典雄『運動療法のための機能解剖学的触診技術上肢/下肢・体幹 改訂第2版』		提出物 骨学テスト 関節学テスト 筋学テスト 期末試験	10.0% 10.0% 10.0% 20.0% 50.0%	提出物、確認テスト、期末試験の成績を基に総合的に判断する。

回	テ ー マ	内 容
---	-------	-----

作成者: 松本 昇

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
解剖生理学Ⅱ		理学療法科／1年	2025／通年	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	60回	4単位（120時間）	必須	松本 昇（実務経験有）

授 業 の 概 要

人体の各臓器がいかにして恒常性維持に機能しているかを学習する。
形態構造のみの学習にとどまらず、関連器官と合わせてその構造と機能を学ぶ。
【実務経験】 病院勤務

授業終了時の到達目標

生体が営む複雑で巧妙な機能がどのようなメカニズムで表現するかを考え、理解する。
正常な生体機能を維持するための機能と、これらの調節に関する基本的知識を修得する。

回	テ ー マ	内 容
1	循環器系の構造と機能①	講義
2	循環器系の構造と機能②	講義
3	循環器系の構造と機能③	講義
4	循環器系の構造と機能④	講義
5	循環器系の構造と機能⑤	講義
6	循環器系の構造と機能⑥	講義
7	循環器系の構造と機能⑦	講義
8	循環器系の構造と機能⑧	講義
9	循環器系の確認テストと解説	講義
10	血液①	講義
11	血液②	講義
12	免疫応答①	講義
13	免疫応答②	講義
14	免疫応答③	講義
15	免疫応答④	講義
16	血球・免疫応答の確認テストと解説	講義
17	呼吸器系の構造と機能①	講義
18	呼吸器系の構造と機能②	講義
19	呼吸器系の構造と機能③	講義
20	呼吸器系の構造と機能④	講義
21	呼吸器系の構造と機能⑤	講義
22	呼吸器系の構造と機能⑥	講義
23	呼吸器系の構造と機能⑦	講義
24	呼吸器系の構造と機能⑧	講義
25	呼吸器系の確認テストと解説	講義
26	消化器系の構造と機能①	講義
27	消化器系の構造と機能②	講義
28	消化器系の構造と機能③	講義
29	消化器系の構造と機能④	講義
30	消化器系の構造と機能⑤	試験
31	消化器系の構造と機能⑥	講義
32	消化器系の構造と機能⑦	講義
33	消化器系の構造と機能⑧	講義
34	消化器系の構造と機能⑨	講義
35	消化器系の構造と機能⑩	講義
36	消化器系の確認テストと解説	講義
37	腎・泌尿器系の構造と機能①	講義
38	腎・泌尿器系の構造と機能②	講義
39	腎・泌尿器系の構造と機能③	講義
40	腎・泌尿器系の構造と機能④	講義
41	腎・泌尿器系の構造と機能⑤	講義
42	腎・泌尿器系の構造と機能⑥	講義
43	腎・泌尿器系の構造と機能⑦	講義

回	テ ー マ	内 容		
44	腎・泌尿器系の構造と機能⑧	講義		
45	腎・泌尿器系の確認テストと解説	講義		
46	生殖器系の構造と機能①	講義		
47	生殖器系の構造と機能②	講義		
48	生殖器系の構造と機能③	講義		
49	生殖器系の構造と機能④	講義		
50	生殖器系の構造と機能⑤	講義		
51	生殖器系の構造と機能⑥	講義		
52	代謝とエネルギー①	講義		
53	代謝とエネルギー②	講義		
54	代謝とエネルギー③	講義		
55	代謝とエネルギー④	講義		
56	内分泌系の構造と機能①	講義		
57	内分泌系の構造と機能②	講義		
58	内分泌系の構造と機能③	講義		
59	内分泌系の構造と機能④	講義		
60	試験・解説	試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・標準理学療法学・作業療法学「解剖学」 ・病気がみえる 1 消化器 MEDIC MEDIA ・病気がみえる 2 循環器 MEDIC MEDIA ・病気がみえる 3 糖尿病・代謝・内分泌 MEDIC MEDIA ・病気がみえる 4 呼吸器 MEDIC MEDIA ・病気がみえる 8 腎・泌尿器 MEDIC MEDIA		確認テスト	50%	
		期末試験	50%	

回	テ ー マ	内 容
---	-------	-----

作成者: 兼八 勇治

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
解剖生理学Ⅲ		理学療法科／1年	2025／通年	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	60回	4単位（120時間）	必須	兼八 勇治（実務経験有）

授 業 の 概 要

神経系の構成や役割を知り、各部分の名称、位置、機能を学習する。また、正常画像を学習し、画像診断学に活かせるようにする。

授業終了時の到達目標

- ①神経系の構成が分かる
- ②神経系の役割が分かる
- ③各部分の名称、位置、機能が分かる
- ④正常画像により位置が理解できる

回	テ ー マ	内 容
1	動物機能と植物機能	講義
2	細胞の構造と機能	講義
3	確認テスト①	講義
4	神経系総論①	講義
5	神経系総論②	講義
6	神経系総論③	講義
7	神経系総論④	講義
8	神経系総論⑤	講義
9	確認テスト②	講義
10	感覚①	講義
11	感覚②	講義
12	求心性伝導路	講義
13	遠心性伝導路	講義
14	確認テスト③	講義
15	脊髄①	講義
16	脊髄②	講義
17	大脳①	講義
18	大脳②	講義
19	大脳③	講義
20	大脳④	講義
21	確認テスト④	講義
22	間脳①	講義
23	間脳②	講義
24	大脳辺縁系の構造・機能	講義
25	大脳基底核①	講義
26	大脳基底核②	講義
27	大脳基底核③	講義
28	確認テスト⑤	講義
29	小脳①	講義
30	小脳②	講義
1	小脳③	講義
2	確認テスト⑥	講義
3	脳幹①；中脳の構造	講義
4	脳幹②；中脳の機能	講義
5	脳幹③；橋の構造	講義
6	脳幹④；橋の機能	講義
7	脳幹⑤；延髄の構造	講義
8	脳幹⑥；延髄の機能	講義
9	確認テスト⑦	講義
10	脳神経①	講義
11	脳神経②	講義
12	自律神経①	講義
13	自律神経②	講義

回	テ ー マ	内 容		
14	自律神経③	講義		
15	自律神経④	講義		
16	確認テスト⑧	講義		
17	筋の興奮収縮連関	講義		
18	筋と神経	講義		
19	運動と骨格筋系①	講義		
20	運動と骨格筋系②	講義		
21	確認テスト⑨	講義		
22	運動と神経系①	講義		
23	運動と神経系②	講義		
24	運動学習とトレーニング	講義		
25	髄膜の構造と機能	講義		
26	脳室の構造と機能	講義		
27	脳を栄養する血管について	講義		
28	確認テスト⑩	講義		
29	期末試験	試験		
30	試験解説	講義		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
野村嵯 他『標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学』医学書院. 医療情報科学研究所『病気が見える脳・神 経』		確認テスト総合 期末試験	40.0% 60.0%	確認テストと期末 試験で判断する。

回	テ ー マ	内 容
---	-------	-----

作成者:川崎 明浩

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
運動学		理学療法科／1年	2025／後期	講義・演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	60回	4単位（120時間）	必須	川崎 明浩（実務経験有）

授 業 の 概 要

解剖生理学で学んだ運動器の基本構造を確認した後、上肢および下肢・体幹・顔面の運動学的特徴や運動メカニズムについて解説していく。また、演習を通して機能解剖と運動メカニズムの統合を図り、次のステップとなる理学療法評価や介入へのスムーズな移行につなげる。また、姿勢や正常歩行についての基本的な内容を学習し、動作・歩行分析につなげて行く。

[実務経験] 病院・介護老人保健施設等勤務

授業終了時の到達目標

- ①上肢や下肢・体幹に関係する筋や靭帯・骨・関節の名称が分かるとともに形態の特徴を理解する。
- ②それに基づく運動の特徴や運動のメカニズム・運動力学的特徴を理解する。
- ③さらに、運動連鎖の視点を身につけることで各関節や筋の関連を理解する。

回	テ ー マ	内 容
1	運動学とは	講義：運動学に関する用語、運動学の基本事項
2	姿勢の名称と関節運動方向の名称	講義：軸や面を基本に運動方向
3	関節の基本的構造	講義：骨・関節の基本構造、骨の連結
4	可動関節の形態分類	講義：可動（滑膜）関節の基本構造、各種分類
5	骨格筋の構造と機能①	講義：分類、基本構造、筋収縮の様態
6	骨格筋の構造と機能②	講義：筋収縮のメカニズム
7	確認テスト1	試験・解説
8	肩甲帯・肩関節の機能解剖と運動学①	講義・演習：肩甲帯の特徴
9	肩甲帯・肩関節の機能解剖と運動学②	講義・演習：肩甲上腕関節の運動の特徴
10	肩甲帯・肩関節運動に関与する筋①	講義・演習：腕神経叢の確認、肩甲骨に起始・停止をもつ筋
11	肩甲帯・肩関節運動に関与する筋②	講義・演習：肩関節運動の筋
12	肩甲帯・肩関節にみられる疾患や障害①	講義・演習：肩甲帯・肩関節障害の特殊テスト
13	肩甲帯・肩関節にみられる疾患や障害②	講義：肩甲帯・肩関節障害の疾患
14	確認テスト2	試験・解説
15	肘関節・前腕の機能解剖と運動学①	講義・演習：肘関節の特徴

回	テ ー マ	内 容
16	肘関節・前腕の機能解剖と運動学②	講義・演習：前腕の特徴
17	肘関節・前腕の運動に関与する筋①	講義・演習：肘関節の筋
18	肘関節・前腕の運動に関与する筋②	講義・演習：前腕の筋
19	肘関節・前腕にみられる疾患および障害	講義・演習：肘関節・前腕の疾患および障害の特殊テスト
20	確認テスト3	試験・解説
21	手関節の機能解剖と運動学①	講義・演習：手関節の特徴
22	手関節の機能解剖と運動学②	講義・演習：手根管、手根骨の触診など
23	手部の機能解剖と運動学①	講義・演習：MPおよびIP関節の特徴
24	手部の機能解剖と運動学②	講義：腱膜および握り・つまみの分類
25	手関節・手部の運動に関与する筋①	講義・演習：手外筋
26	手関節・手部の運動に関与する筋②	講義・演習：手内筋
27	手関節・手部にみられる変形および疾患	講義：特殊テストおよび手内筋優位および劣位の手、末梢神経障害による手など
28	確認テスト4	試験・解説
29	股関節の機能解剖と運動学①	講義・演習：股関節の特徴
30	股関節の機能解剖と運動学②	講義・演習：股関節の靭帯、X線上の各種線
31	股関節の運動に関与する筋①	講義・演習：股関節の筋
32	股関節の運動に関与する筋②	講義・演習：股関節の筋
33	股関節に関する疾患および障害①	講義・演習：股関節障害の特殊テスト
34	股関節に関する疾患および障害②	講義：股関節の疾患
35	確認テスト5	試験・解説
36	膝関節の機能解剖と運動学①	講義・演習：膝関節の特徴

回	テ ー マ	内 容
37	膝関節の機能解剖と運動学②	講義・演習：膝関節のメカニズム
38	膝関節の運動に関与する筋①	講義・演習：膝関節の靱帯
39	膝関節の運動に関与する筋②	講義・演習：膝関節の筋
40	膝関節に関する疾患および障害①	講義・演習：膝関節の障害の特殊テスト
41	膝関節に関する疾患および障害②	講義：膝関節の疾患
42	確認テスト6	試験・解説
43	足関節・足部の機能解剖と運動学①	講義・演習：足の骨の特徴
44	足関節・足部の機能解剖と運動学②	講義・演習：距腿関節および距骨下関節の特徴
45	足関節および足部の運動に関与する筋①	講義・演習：足関節の靱帯
46	足関節および足部の運動に関与する筋②	講義・演習：足関節の筋
47	足部にみられる変形および足関節・足部に関する疾患、障害	講義・演習：足関節障害の特殊テストおよび疾患、足部の変形
48	確認テスト7	試験・解説
49	脊柱の基本構造	講義・演習：脊柱および脊椎の特徴
50	体幹の機能解剖と運動学①	講義・演習：頸部および胸部の特徴、動き
51	体幹の機能解剖と運動学②	講義・演習：腰部（仙腸関節を含む）の特徴、動き
52	体幹の運動に関与する筋①	講義・演習：呼吸運動に関する筋、腹筋群
53	体幹の運動に関与する筋②	講義・演習：頸部伸展、腰部伸展筋群
54	脊柱・体幹にみられる疾患および障害	講義：疾患および障害
55	確認テスト8	試験・解説
56	姿勢①	講義：重心や支持基底面、筋活動
57	姿勢②	講義：姿勢制御のしくみ（各戦略の特徴など）

回	テ ー マ	内 容		
58	正常歩行①	講義：正常歩行の関節運動（変位の特徴）		
59	正常歩行②	講義：正常歩行時にみられる筋活動（筋収縮の様態や活動の意味）		
60	正常歩行③	講義：異常歩行とその特徴		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
有馬慶美 他 監訳『筋骨格系のキネシオロジー』医歯薬出版. 青木隆明 監修『運動療法のための機能解剖学的触診技術』メディカルビュー 中村隆一 著『臨床運動学』医歯薬出版.		確認テスト（各５点）	40.0%	
		前期末試験	30.0%	
		後期末試験	30.0%	

回	テ ー マ	内 容		
				作成者:杉本 和彦
科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
人間発達学		理学療法科／1年	2025／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	杉本 和彦（実務経験有）
授 業 の 概 要				
「人間の発達とはなにか？」臨床的視点に根差した人間発達学の知的体系を学ぶ。 人間の発達過程を①機能の発達、②社会生活活動の発達、③発達段階（胎生期～老年期）の視点から体系的に学習する。 [実務経験] 病院勤務				
授業終了時の到達目標				
臨床的視点に根差した人間発達学の知的体系を理解する。 発達の諸段階（胎児期～老年期）と発達課題について理解する。また、社会生活活動の発達について理解する。				
回	テ ー マ	内 容		
1	人間の発達とは	講義		
2	発達の理論と検査	講義		
3	反射・反応について	講義		
4	ヘッドコントロールについて	講義		
5	体軸内回旋について	講義		
6	座位・上肢・手の使用	講義		
7	立位・歩行について	講義		
8	発達倫理について	講義		
9	老年期について	講義		
10	小児疾患概論	講義		
11	演習課題グループワーク	講義		
12	演習課題グループワーク	講義		
13	基本動作分析①	講義		
14	基本動作分析②	講義		
15	試験・解説	講義		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
上杉雅之 著『イラストでわかる人間発達学』医歯薬出版.		期末試験	100.0%	期末試験100%として、評価を行う

回	テ ー マ	内 容
---	-------	-----

作成者: 松本 昇

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
病理学概論		理学療法科／1年	2025／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	星野 瞳・村元 暁文（実務経験有）

授 業 の 概 要

病理学は臨床への導入部として重要な位置を占めており、器官、組織および細胞の構造変化（病理変化）を通じて疾患を解析し、それらの病理変化の意義について学習する。疾病における組織・細胞・分子レベルでの原因・病態、そのメカニズムを理解する。

〔実務経験〕 病院勤務

授業終了時の到達目標

病理学は臨床への導入部としての重要な位置を占めており、器官、組織および細胞の構造変化（病理変化）を通じて疾患を解析し、それらの病理変化の意義について学習する。疾病における組織・細胞・分子レベルでの原因・病態、そのメカニズムを理解し、臨床レベルでの病態把握へのステップとする。

回	テ　　マ	内　　　　容		
1	組織・細胞の傷害（変性、壊死、アポトーシス）、組織・細胞の修復と再生	講義、スライド		
2	循環障害（虚血、血栓症、梗塞、ショックなど）	講義、スライド		
3	炎症、免疫異常、感染症	講義、スライド		
4	腫瘍概論	講義、スライド		
5	先天異常、遺伝性疾患	講義、スライド		
6	循環器系疾患	講義、スライド		
7	呼吸器系疾患	講義、スライド		
8	消化器系疾患Ⅰ（消化管）	講義、スライド		
9	消化器系疾患Ⅱ（肝臓、胆道系、膵臓）	講義、スライド		
10	泌尿器系（腎臓、膀胱）、生殖器系疾患、乳腺疾患	講義、スライド		
11	造血器系疾患（貧血、白血病、リンパ腫）	講義、スライド		
12	内分泌系（脳下垂体、甲状腺、副腎、その他）	講義、スライド		
13	脳神経系疾患（循環障害、腫瘍、炎症、変性）	講義、スライド		
14	運動器系（筋肉、骨、関節）、その他	講義、スライド		
15	試験	試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
配布資料 渡辺昭男　編集『カラーで学べる病理学』		期末試験	100.0%	定期試験にて評価する

回	テ ー マ	内 容		
廣川書店.				

回	テ ー マ	内 容		
		作成者:北岸 有子		
科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
臨床心理学		理学療法科／1年	2025／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	北岸 有子（実務経験有）
授 業 の 概 要				
臨床心理学とは何か解説した後、ライフサイクルに沿った心の発達過程、心理的問題について解説していく。講義後半ではカウンセリングについて講義し、カウンセリングの流れを解説していく。また事例を挙げても解説を加え、注意点も合わせて説明していく。 〔実務経験〕学校勤務				
授業終了時の到達目標				
臨床心理学の基礎を学ぶことによって、人間への理解を深め、よりよい援助ができるようになることを目指す。				
回	テ ー マ	内 容		
1	臨床心理とは	講義、スライド		
2	臨床心理学アセスメント（1）方法	講義、スライド		
3	臨床心理学アセスメント（2）方法	講義、スライド		
4	臨床心理学アセスメント（3）発達	講義、スライド		
5	臨床心理学の理論的背景（1）	講義、スライド		
6	臨床心理学の理論的背景（2）	講義、スライド		
7	自我の防衛機制について	講義、スライド		
8	心理学的援助の方法	講義、スライド		
9	心理学的援助の方法：集団	講義、スライド		
10	障害の受容：心理的なプロセス	講義、スライド		
11	心に傷を受けた人の心のケア	講義、スライド		
12	高齢者の心理臨床	講義、スライド		
13	危機介入とコンサルテーション	講義、スライド		
14	まとめ：現代の課題	講義、スライド		
15	試験	試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
下山晴彦 監修『臨床心理学概論』ミネルヴァ書房.		期末試験	100.0%	筆記試験

回	テ ー マ	内 容
---	-------	-----

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
整形外科学Ⅰ		理学療法科／1年	2025／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	川崎 明浩（実務経験有）

授 業 の 概 要				
整形外科疾患のうち外傷について紹介する。 疾患の病態理解、受傷機転、疾患に対する診断の流れ、治療を説明する。 【実務経験】 病院勤務				

授業終了時の到達目標				
主な整形外科疾患の病態について説明できる。 主な整形外科疾患の診断方法（所見、疾患特異検査）について説明できる。 主な整形外科疾患の治療方法について理解できる。 主な整形外科疾患のリハビリテーションについて理解できる。				

回	テ ー マ	内 容
1	整形外科学総論	講義
2	ライフステージと整形外科疾患	講義
3	組織の修復	講義
4	外傷総論	講義
5	脊椎損傷概論	講義
6	脊髄損傷概論	講義
7	上肢の外傷①	講義
8	上肢の外傷②	講義
9	下肢の外傷①	講義
10	下肢の外傷②	講義
11	その他の外傷	講義
12	スポーツ障害①	講義
13	スポーツ障害②	講義
14	切断	講義
15	試験	試験

教科書・教材		評価基準	評価率	その他
池田浩 他『PT・OTの整形外科学』文光堂. 配布資料 【参考文献】 鳥巢岳彦 他『標準整形外科学 第15版』医学書院. 医療情報科学研究所 著『病気がみえるvol.11 運動器・整形外科』メディックメディア.		期末試験 小テスト	80.0% 20.0%	

回	テ ー マ	内 容		
				作成者: 呉服 健一
科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
整形外科Ⅱ		理学療法科／2年	2025／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	呉服 健一（実務経験有）
授 業 の 概 要				
整形外科疾患のうち外傷以外の疾患について紹介する。 疾患の病態理解、受傷機転、疾患に対する診断の流れ、治療を説明する。 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
主な整形外科疾患の病態について説明できる。 主な整形外科疾患の診断方法（所見、疾患特異検査）について説明できる。 主な整形外科疾患の治療方法について理解できる。 主な整形外科疾患のリハビリテーションについて理解できる。				
回	テ ー マ	内 容		
1	骨粗鬆症と骨代謝疾患	講義		
2	上肢の代表的な整形外科疾患①	講義		
3	上肢の代表的な整形外科疾患②	講義		
4	下肢の代表的な整形外科疾患①	講義		
5	下肢の代表的な整形外科疾患②	講義		
6	脊柱の代表的な整形外科疾患①	講義		
7	脊柱の代表的な整形外科疾患②	講義		
8	脊髄損傷（頸髄）	講義		
9	脊髄損傷（胸髄・腰髄）	講義		
10	末梢神経障害（絞扼性神経障害）	講義		
11	関節リウマチ①	講義		
12	関節リウマチ②	講義		
13	骨軟部腫瘍	講義		
14	骨壊死性疾患	講義		
15	試験	試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
鳥巢岳彦 他『標準整形外科学 第12版』医学書院. 東博彦 他『整形外科サブノート』南江堂. 加倉井周一・渡辺英夫 著『運動器疾患とリハビリテーションーPT・OTのための整形外科学』医歯薬出版.		期末試験	100.0%	

回	テ　　マ		内　　　容		
作成者:松本　昇					
科　目　名		学科／学年	年度／時期	授業形態	
内科学Ⅰ		理学療法科／1年	2025／後期	講義	
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員	
90分	15回	1単位（30時間）	必須	竹村　繭美（実務経験有）	
授　業　の　概　要					
呼吸器疾患と循環器疾患について、成因、病態を詳解し、疫学、臨床像、検査と診断、治療、評価、予後などについて幅広く学習する。 【実務経験】病院勤務					
授業終了時の到達目標					
呼吸器疾患と循環器疾患について、成因、病態を詳解し、疫学、臨床像、検査と診断、治療、評価、予後などについて学び、理解する。					
回	テ　　マ		内　　　容		
1	呼吸器疾患①		講義		
2	呼吸器疾患②		講義		
3	呼吸器疾患③		講義		
4	呼吸器疾患④		講義		
5	呼吸器疾患⑤		講義		
6	呼吸器疾患⑥		講義		
7	呼吸器疾患⑦		講義		
8	循環器疾患①		講義		
9	循環器疾患②		講義		
10	循環器疾患③		講義		
11	循環器疾患④		講義		
12	循環器疾患⑤		講義		
13	循環器疾患⑥		講義		
14	循環器疾患⑦		講義		
15	試験		試験		
教科書・教材			評価基準	評価率	その他
大成浄志　執筆 『標準理学療法学・作業療法学　専門分野　内科学』医学書院.			期末試験	100%	

回	テ ー マ	内 容
---	-------	-----

作成者: 松本 昇

科 目 名	学科／学年	年度／時期	授業形態
内科学Ⅱ	理学療法科／2年	2025／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択
90分	15回	1単位（30時間）	必須
			竹村 繭美（実務経験有）

授 業 の 概 要

消化器疾患と腎泌尿器疾患、代謝疾患について、成因、病態を詳解し、疫学、臨床像、検査と診断、治療、評価、予後などについて幅広く学習する。

【実務経験】病院勤務

授業終了時の到達目標

消化器疾患と腎泌尿器疾患、代謝疾患について、成因、病態を詳解し、疫学、臨床像、検査と診断、治療、評価、予後などについて学び、理解する。

回	テ ー マ	内 容
1	消化器疾患①	講義
2	消化器疾患②	講義
3	消化器疾患③	講義
4	消化器疾患④	講義
5	消化器疾患⑤	講義
6	消化器疾患⑥	講義
7	腎・泌尿器疾患①	講義
8	腎・泌尿器疾患②	講義
9	腎・泌尿器疾患③	講義
10	腎・泌尿器疾患④	講義
11	腎・泌尿器疾患⑤	講義
12	腎・泌尿器疾患⑥	講義
13	代謝疾患①	講義
14	代謝疾患②	講義
15	試験	試験

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
大成浄志 執筆 『標準理学療法学・作業療法学 専門分野 内科学』医学書院.	期末試験	100%	

回	テ ー マ	内 容
---	-------	-----

作成者:宮川 明浩

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
神経内科学		理学療法科／2年	2025／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位（60時間）	必須	宮川 明浩（実務経験有）

授 業 の 概 要

神経内科学とは、中枢・末梢神経系および筋肉の内科的疾患を対象とする臨床医学である。リハビリテーションの対象は、神経筋骨格系に生ずる身体障害であるが、本講義は神経内科学総論であり、関連疾患の臨床症状や診断法について述べる。
 [実務経験] 病院ならびに介護老人保健施設等 勤務

授業終了時の到達目標

主な中枢神経疾患、末梢神経疾患の病態と症状などについて理解するとともに関連用語の修得とリハビリテーション医学に於ける障害分析能力を育成する。

回	テ ー マ	内 容
1	Parkinson病を知るための基礎知識	講義
2	Parkinson病の病態・症状について	講義
3	Parkinson病の治療薬について	講義
4	Parkinson病の評価	講義
5	Parkinson症候群について	講義
6	確認テスト1	試験・解説
7	脳血管障害を知るための基礎知識	講義
8	脳血管障害の分類 脳梗塞の臨床病態について	講義
9	脳血管障害の症状について	講義
10	脳血管障害の評価について	講義
11	確認テスト2	試験・解説
12	神経筋疾患の病態	講義
13	神経筋疾患の病態	講義
14	筋萎縮性側索硬化症（ALS）について	講義
15	筋萎縮性側索硬化症（ALS）について	講義
16	脱髄疾患について	講義
17	脱髄疾患について	講義
18	重症筋無力症について	講義

回	テ ー マ	内 容		
19	重症筋無力症について	講義		
20	筋ジストロフィーについて	講義		
21	筋ジストロフィーについて	講義		
22	確認テスト3	試験・解説		
23	運動失調症とは	講義		
24	運動失調症の種類とその特徴	講義		
25	運動失調症の評価	講義		
26	運動失調症の運動療法	講義		
27	運動失調をきたす疾患① 脊髄小脳変性症	講義		
28	運動失調をきたす疾患② 多系統萎縮症	講義		
29	確認テスト4	試験・解説		
30	まとめのテスト	試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
川平和美 他著『標準理学療法学・作業療法学 神経内科学』医学書院。 田崎義昭・齋藤佳雄『ベッドサイドの神経の診かた』南山堂		確認テスト総合 まとめのテスト	50.0% 50.0%	確認テストとまとめのテストで評価する。

回	テ　　マ		内　　　　容	
作成者：松本　昇				
科　目　名		学科／学年	年度／時期	授業形態
精神医学		理学療法科／3年	2026／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	松本　昇（実務経験有）
授　業　の　概　要				
主な精神疾患の症状・診断・治療について学習し、国家試験に対応でき、臨床に役立つ知識を習得する。 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
精神医学における主要疾患の症状、診断、治療について述べ、精神療法の概要についても理解を深め、将来の臨床経験に役立てる。				
回	テ　　マ		内　　　　容	
1	精神医学について		講義、スライド	
2	精神医学における症状		講義、スライド	
3	躁うつ病とうつ病		講義、スライド	
4	統合失調症		講義、スライド	
5	神経症と心身症		講義、スライド	
6	ストレスと自殺について		講義、スライド	
7	児童期精神医学		講義、スライド	
8	思春期精神医学		講義、スライド	
9	青春期精神医学		講義、スライド	
10	中年期精神医学		講義、スライド	
11	老年期精神医学		講義、スライド	
12	薬物依存、人格障害		講義、スライド	
13	精神科治療学		講義、スライド	
14	総括		講義、スライド	
15	試験		試験	
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
上野武治　編集『標準理学療法学・作業療法学　専門基礎分野　精神医学』医学書院.		期末試験	100.0%	筆記試験

回	テ ー マ		内 容	
			作成者:杉本 和彦	
科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
小児科学		理学療法科／2年	2025／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	杉本 和彦（実務経験有）
授 業 の 概 要				
小児の医療とリハビリテーションをめぐる事柄全般について学習する。 【実務経験】病院・学校勤務				
授業終了時の到達目標				
子どもの成長に対する概論と、理学療法士・作業療法士が関わることの多い疾患について理解する。				
回	テ ー マ		内 容	
1	子どもの成長と発育、ライフサイクルにおける小児期の発達課題		講義、スライド	
2	子どもの成長と発育、ライフサイクルにおける小児期の発達課題		講義、スライド	
3	正常発達について①		講義、スライド	
4	正常発達について②		講義、スライド	
5	正常発達について③		講義、スライド	
6	正常発達について④		講義、スライド	
7	脳性麻痺について①		講義、スライド	
8	脳性麻痺について②		講義、スライド	
9	脳性麻痺について③		講義、スライド	
10	脳性麻痺について④		講義、スライド	
11	発達障害について①		講義、スライド	
12	発達障害について②		講義、スライド	
13	発達障害について③		講義、スライド	
14	発達障害について④		講義、スライド	
15	テスト		テスト	
教科書・教材			評価基準	評価率
奈良勲・鎌倉矩子・富田豊編『標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 小児科学』医歯薬出版.			期末試験	100.0%
				筆記試験

回	テ ー マ	内 容		
科 目 名		学 科 / 学 年	年 度 / 時 期	授 業 形 態
一般医学		理学療法科 / 3年	2026 / 前期	講義
授業時間	回数	単位数 (時間数)	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位 (30時間)	必須	森下 正憲 (実務経験有)
授 業 の 概 要				
救急医学の概要と救急措置法について概説する。リハビリテーション医療に必要な救急病態を理解し、蘇生法、止血法、固定法、運搬法等の救急措置法を学習する。次に、外科、産婦人科、皮膚科、眼科、耳鼻科領域の代表的疾患について、病態、症状、検査、評価、治療を学ぶ。 【実務経験】病院ならびに介護老人保健施設等 勤務				
授業終了時の到達目標				
1. 救急疾患の病態を理解し、蘇生法、止血法、固定法、運搬法等の救急措置法を修得する。 2. 外科、産婦人科、皮膚科、眼科、耳鼻咽喉科の代表的疾患について、病態、特徴的に現れる症状、治療法を説明できる。 3. 外科、産婦人科、皮膚科、眼科、耳鼻咽喉科疾患におけるリハビリテーション留意事項を説明できる。				
回	テ ー マ	内 容		
1	救急医学総論①	講義、スライド		
2	救急医学総論②	講義、スライド		
3	救急医学各論①	講義、実技・演習		
4	救急医学各論②	講義、実技・演習		
5	救急医学各論③	講義、実技・演習		
6	産科学	講義、スライド		
7	婦人科学	講義、スライド		
8	皮膚科学	講義、スライド		
9	皮膚科学	講義、スライド		
10	皮膚科学	講義、スライド		
11	眼科学	講義、スライド		
12	眼科学	講義、スライド		
13	耳鼻咽喉科学	講義、スライド		
14	耳鼻咽喉科学	講義、スライド		
15	試験	試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
医歯薬出版：PT・OTのための一般臨床医学：明石謙		期末試験	100%	定期試験にて評価する。

回		テ　　マ		内　　　　容	
				作成者: 松本　昇	
科　目　名		学科／学年		年度／時期	授業形態
薬理学		理学療法科／2年		2025／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）		必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位（15時間）		必須	西本　侑市（実務経験有）
授　業　の　概　要					
薬理学は、生体と外界の化合物（薬）との相互作用の結果生じる現象を研究する学問である。本講義では、まず、薬理作用を理解するための生物学的な基礎知識の習得に重点を置き、分子レベル、細胞レベル、個体レベルで、薬の作用のメカニズムを説明する。 また、薬の体の中で動態、有害反応を学ぶことにより、臨床講義や実習で必要とされる薬物治療の基礎を習得できることを目指す。【実務経験】施設勤務					
授業終了時の到達目標					
・ 人の身体の生理学や代謝の原理的理解を基盤として、医薬等が、どのような薬理作用を示すか、その作用機構について理解できる。 ・ 個々の医薬品について具体例をもってその作用を理解できる。 ・ 医薬品による医療事故、サプリメント、食品の安全などについて、原理的に、人の身体に外から投入された物質と身体の相互作用に基づいていることを理解できる。					
回	テ　　マ		内　　　　容		
1	薬理学概論		講義		
2	人の体の動きの原理的理解		講義		
3	薬理作用の分類		講義		
4	薬物の体内動態		講義		
5	薬物の作用機序		講義		
6	サプリメント、食品添加物などの薬		講義		
7	麻薬、毒物などに対する理解		講義		
8	試験		試験		
教科書・教材			評価基準	評価率	その他
配布資料			期末試験	100.0%	期末試験によって評価します。

回	テ　　マ		内　　　　容		
科　目　名			学科／学年	年度／時期	授業形態
画像診断学			理学療法科／2年	2025／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員	
90分	15回	1単位（30時間）	必須	松本　昇（実務経験有）	
授　業　の　概　要					
リハビリテーションに携わる医療専門職には、各種画像診断、生理機能検査学の基本的理解が必要である。 本講では、放射線医学の基礎、人体各部位のエックス線、CT、MRI の検査方法と画像診断を学習する。 生理機能検査学では、心電図、呼吸機能検査、血液ガス検査検査、脳波、筋電図検査、超音波検査について、その臨床的意義、情報収集技術、結果の解析、評価法を学習する。 【実務経験】病院勤務					
授業終了時の到達目標					
1．X 線、CT、MRI の検査方法と、胸部、腹部、頭部画像診断を説明できる。 2．心電図、呼吸機能検査、脳波、筋電図検査の臨床的意義、情報収集技術、評価法を説明できる。					
回	テ　　マ		内　　　　容		
1	画像診断学総論		講義、スライド		
2	生理機能検査学総論		講義、スライド		
3	生理機能検査学各論①		講義、スライド		
4	生理機能検査学各論②		講義、スライド		
5	生理機能検査学各論③		講義、スライド		
6	生理機能検査学各論④		講義、スライド		
7	放射線医学総論		講義、スライド		
8	画像診断学各論①		講義、スライド		
9	画像診断各論②		講義、スライド		
10	画像診断学各論③		講義、スライド		
11	画像診断各論④		講義、スライド		
12	まとめ		講義、スライド		
13	まとめ		講義、スライド		
14	まとめ		講義、スライド		
15	試験		試験		
教科書・教材			評価基準	評価率	その他
医学教育出版社：PT・OTのための画像診断マニュアル：百島祐貴			期末試験	100.0%	筆記試験として100%評価

回	テ　　マ		内　　　　容	
			作成者:松本　昇	
科　目　名		学科／学年	年度／時期	授業形態
臨床栄養学		理学療法科／1年	2025／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位（15時間）	必須	松本　昇（実務経験有）
授　業　の　概　要				
栄養についてその種類とそれらが体に及ぼす影響について講義し、さらに基礎代謝量やエネルギー消費量についての講義、計算方法も解説していく。医療やスポーツなど、さまざまな分野・対象者に対して栄養学的側面も考慮に入れてアプローチを検討するための 【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
食物がどのように栄養素に分解されていくかを説明できる 各栄養素が体でどのような働きを行うかを説明できる 目的に応じた食事摂取・補食方法について説明できる				
回	テ　　マ		内　　　　容	
1	栄養素の機能		講義、スライド	
2	消化と吸収		講義、スライド	
3	運動と食事		講義、スライド	
4	栄養補助食品・サプリメント・ドー		講義、スライド	
5	栄養過多（糖尿病、高脂血症、肥		講義、スライド	
6	栄養不足（やせ、悪液質）		講義、スライド	
7	NSTと理学療法士の役割		講義、スライド	
8	試験・解説		試験	
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
配布資料		期末試験	100.0%	筆記試験

回	テ ー マ		内 容	
			作成者:宮川 孝芳	
科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
リハビリテーション概論		理学療法科／1年	2025／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	宮川 孝芳（実務経験有）
授 業 の 概 要				
リハビリテーションの概念と定義、障害者処遇の歴史、障害・障害者と国際基準、障害者心理、リハビリテーションの4つの側面と我が国の障害者施策について学ぶ。リハビリテーションに携わる理学療法、作業療法、言語聴覚療法のそれぞれの概要および医療チームにおける役割と他職種連携について学ぶ。				
【実務経験】病院ならびに介護老人保健施設等 勤務				
授業終了時の到達目標				
本講義では、リハビリテーションの概念・理論を学習した上で、社会における必要性・具体的な対象や方法についての知識を理解する。				
回	テ ー マ		内 容	
1	リハビリテーションの理論と歴史		講義、スライド	
2	定義と目標		講義、スライド	
3	組織と構成		講義、スライド	
4	対象と範囲		講義、スライド	
5	歴史的展開		講義、スライド	
6	リハビリテーション関連専門職の現		講義、スライド	
7	〃		講義、スライド	
8	医学的リハビリテーション		講義、スライド	
9	〃		講義、スライド	
10	保健・福祉分野におけるリハビリ		講義、スライド	
11	〃		講義、スライド	
12	社会的・教育的・職業的リハビリ		講義、スライド	
13	〃		講義、スライド	
14	リハビリテーションの展開		講義、スライド	
15	試験		試験	
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
中村隆一編『入門リハビリテーション概論』医歯薬出版.		期末試験	100.0%	定期試験にて評価する

回	テ ー マ	内 容
作成者:橋詰 善和		
科 目 名 公衆衛生学		学科／学年 理学療法科／1年
授業時間 90分		年度／時期 2025／前期
回数 15回		単位数（時間数） 1単位（30時間）
		必須・選択 必須
		担当教員 橋詰 善和（実務経験有）
授 業 の 概 要		
地域で生活する人々の健康の維持・増進・向上のために必要な公衆衛生学について学習する。 【実務経験】病院勤務		
授業終了時の到達目標		
健康と福祉の理念に基づく公衆衛生の実践が世界の人類の平和と安全に貢献することを理解し、医療従事者としての自覚と研鑽に役立つ学習を目指す。		
回	テ ー マ	内 容
1	公衆衛生の意義	講義、スライド
2	地域保健と医療制度	講義、スライド
3	国際保健	講義、スライド
4	疫学概論	講義、スライド
5	疫学指標	講義、スライド
6	保健統計資料の活用	講義、スライド
7	生活習慣病の疫学	講義、スライド
8	母子保健	講義、スライド
9	学校保健	講義、スライド
10	精神保健福祉	講義、スライド
11	感染症対策	講義、スライド
12	健康づくり	講義、スライド
13	産業保健	講義、スライド
14	環境衛生と公害	講義、スライド
15	試験	試験
教科書・教材		評価基準
柳川洋・萱場一則 編著『公衆衛生学 コメディカルのための専門基礎分野テキスト』中外医学社. 鈴木庄亮・久道茂 編『シンプル公衆衛生学』南江堂.		期末試験
		評価率
		100.0%
		その他
		筆記試験で判断する。

回	テ ー マ	内 容
---	-------	-----

作成者: 松本 昇

科 目 名	学科／学年	年度／時期	授業形態
社会保障論	理学療法科／3年	2026/後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	担当教員
90分	8回	1単位（15時間）	松本 昇（実務経験無）

授 業 の 概 要

社会福祉全般について学び、医療事故やホスピタルなど福祉と医療に関連する課題を知り、社会で役立てられるようにする。
【実務経験】なし

授業終了時の到達目標

本講義では、社会福祉全般についての理解を深めることを旨とし、社会福祉の歴史、理念、また社会福祉制度や社会保障、さらには社会福祉援助技術、その方法論など幅広い知識の習得に努める。また、現代社会が抱える様々な福祉ニーズを整理し、医療事故やホスピスなど福祉と医療に関連する課題についても考察する。

回	テ ー マ	内 容
1	社会福祉の理念と意義	講義
2	現代社会福祉の展開 社会福祉の歴史（日本・欧米）	講義
3	社会保障制度、公的扶助	講義
4	児童福祉、障害者福祉 生活保護の種類 原理 施設	講義
5	高齢者福祉の理念 法律 施設	講義
6	障害者福祉 分類 法律 障害者総合支援法	講義
7	これからの社会福祉の課題 専門職	講義
8	試験	試験

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
成清美治・加納光子 編『社会福祉』学文社. 西尾祐吾『はじめて出会う社会福祉』相川書房. 福祉士養成講座編集委員会 編『社会福祉原論』中央法規. 大利一雄『グループワーク理論とその導き方』勁草書房.	期末試験	100.0%	筆記試験

回	テ ー マ	内 容
---	-------	-----

作成者: 達川 仁路

科 目 名	学科／学年	年度／時期	授業形態
多職種連携	理学療法科／2年	2025／前期	講義・演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択
90分	15回	1単位（30時間）	必須
			達川 仁路（実務経験有）

授 業 の 概 要

現代社会における保健・医療・福祉では、個体差に基づいた個々人に最も適したケア、および個人の人格を尊重し、個々人を最も幸福にするケアが求められている。また、高度に専門化し複雑化した保健・医療・福祉システムや、少子高齢化時代を迎えるにあたり、専門職業人が協働する「多職種連携」が必要とされている。この講義では、多職種連携の理念と方法、その具体的実践について学ぶ。
【実務経験】施設勤務

授業終了時の到達目標

- 1・個人差に応じた健康科学の理念と実践について理解できる。
- 2・多職種連携の理念と実践について理解できる。
- 3・一人ひとりのケアのために必要とされる多職種連携の意義について理解できる。
- 4・チームにおいて信頼関係を築きながら目標に向かって協働することができる。
- 5・目指すべき新医療人とはどのような専門職業人かを説明できる。

回	テ ー マ	内 容
1	オリエンテーション	講義・演習、スライド
2	多職種連携のベース① 連携に役に立つところのスキル	講義・演習、スライド
3	多職種連携のベース② 連携に役に立つところのスキル	講義・演習、スライド
4	地域医療・福祉の連携①	講義・演習、スライド
5	地域医療・福祉の連携②	講義・演習、スライド
6	多職種連携① ドクターとの連携	講義・演習、スライド
7	多職種連携② 歯学との連携	講義・演習、スライド
8	多職種連携③ 看護師との連携	講義・演習、スライド
9	多職種連携④ 看護師との連携	講義・演習、スライド
10	多職種連携⑤ 介護士との連携	講義・演習、スライド
11	多職種連携⑥ 介護士との連携	講義・演習、スライド
12	多職種連携⑦ 言語聴覚士との連携	講義・演習、スライド
13	多職種連携⑧ 作業療法士との連携	講義・演習、スライド
14	多職種連携⑨ ケアマネとの連携	講義・演習、スライド
15	試験	試験

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
北島政樹 編 「医療福祉をつなぐ関連職種連携」 南江堂 2013 埼玉県立大学 編 「IPWを学ぶ 利用者中心の保健医療福祉連携」 中央法規 2009	期末試験	100.0%	定期試験にて評価する

回	テ ー マ	内 容
---	-------	-----

作成者：川崎 明浩

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
理学療法概論Ⅰ		理学療法科／1年	2025／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	川崎 明浩（実務経験有）

授 業 の 概 要

本講義では、理学療法士を取り巻く法律制度、医療制度、社会的役割、組織、管理、教育制度、理学療法が対象とする疾患、治療法の概要、歴史、哲学、倫理などについて概観する。また、理学療法士になるために、どのような知識・技術が必要となるかを解説し、各科目の学修意義を明確化する。
[実務経験] 病院勤務

授業終了時の到達目標

本校で理学療法士を目指しながら修得すべき知識・技術の概要について理解できる。
理学療法についての法的定義を説明できる。
理学療法の全体的な流れを説明できる。
自身の目指す理学療法士像を涵養できる。

回	テ　　マ	内　　　容		
1	若狭医療福祉専門学校 理学療法科カリキュラム構成	講義、スライド		
2	学修方法	講義、スライド		
3	理学療法士の法律制度と医療における位置づけ(1)	講義、スライド		
4	理学療法士の法律制度と医療における位置づけ(2)	講義、スライド		
5	理学療法の社会的役割(1)	講義、スライド		
6	理学療法の社会的役割(2)	講義、スライド		
7	理学療法士の組織と活動	講義、スライド		
8	理学療法に関する教育制度	講義、スライド		
9	理学療法の対象疾患と治療手段	講義、スライド		
10	理学療法の対象疾患と治療手段	講義、スライド		
11	理学療法の対象疾患と治療手段	講義、スライド		
12	理学療法の歴史、哲学、倫理(1)	講義、スライド		
13	理学療法の歴史、哲学、倫理(2)	講義、スライド		
14	病院、施設見学の意義と目的①	講義、スライド		
15	病院、施設見学の意義と目的②	試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
齊藤秀之『理学療法管理学』医学書院. 配布資料		レポート グループ課題	80.0% 20.0%	

回	テ　　マ	内　　　　容		

回	テ ー マ	内 容
---	-------	-----

作成者: 兼八 勇治

科 目 名	学科／学年	年度／時期	授業形態
理学療法概論Ⅱ	理学療法科／2年	2025／前期	講義・演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択
90分	15回	1単位（30時間）	必須
兼八 勇治（実務経験有）			

授 業 の 概 要

理学療法概論Ⅰで学んだ基礎知識に追加して、理学療法士として働くにあたり必要な職業倫理、医療安全、リスクマネジメント、医療保険、社会保険、診療報酬などを学習し、知識を広げていく。

【実務経験】病院勤務

授業終了時の到達目標

広義の社会保障制度について概要を説明できる。

医療安全に対する基礎知識を説明できる。

生涯学習の必要性を説明できる。

対人援助職・国家資格である理学療法士を目指すにあたり、現状の自身の課題を明確化できる。

回	テ ー マ	内 容
1	自己覚知	講義・演習、スライド
2	理学療法士の職業倫理	講義、スライド
3	病院組織の管理運営と理学療法士	講義、スライド
4	医療安全、リスクマネジメント	講義・スライド
5	診療報酬のしくみ	講義・演習、スライド
6	医療保険	講義・演習、スライド
7	社会保険制度(1)	講義、スライド
8	社会保険制度(2)	講義、スライド
9	社会保障制度	講義、スライド
10	生涯学習の意義	講義、スライド
11	理学療法研究	講義、スライド、演習
12	障害者スポーツ	演習、スライド
13	臨床実習のあるべき姿とは	講義、スライド
14	臨床実習のあるべき姿とは	講義、スライド、演習
15	試験	試験

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
齊藤秀之『理学療法管理学』医学書院. 配布資料	期末試験 グループ演習 個人演習	50.0% 30.0% 20.0%	筆記試験

回	テ ー マ	内 容
---	-------	-----

作成者: 兼八 勇治

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
臨床運動学		理学療法科／2年	2025／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位（60時間）	必須	兼八 勇治（実務経験有）

授 業 の 概 要

臨床における運動障害を、機能解剖学および運動生理学的知識に基づいて理解する。
【実務経験】 病院勤務

授業終了時の到達目標

- 1) 各疾患の動作における特異性を説明できる
- 2) 各疾患の動作における特性性を理解し、評価することができる
- 3) 異常歩行の概要を理解し、評価することができる

回	テ ー マ	内 容
1	脳血管疾患患者の動作における特異性の概要①	講義、スライド
2	脳血管疾患患者の動作における特異性の概要②	講義、スライド
3	脳血管疾患患者の動作における特異性の概要③	講義、スライド
4	脳血管疾患患者の動作における特異性の評価①	講義、スライド
5	脳血管疾患患者の動作における特異性の評価②	講義、スライド
6	確認テスト① （脳血管疾患患者）	講義、スライド
7	脊髄損傷者の動作における特異性の概要①	講義、スライド
8	脊髄損傷者の動作における特異性の概要②	講義、スライド
9	脊髄損傷者の動作における特異性の概要③	講義、スライド
10	脊髄損傷者の動作における特異性の評価①	講義、スライド
11	脊髄損傷者の動作における特異性の評価②	講義、スライド
12	確認テスト② （脊髄損傷者）	講義、スライド
13	関節リウマチ患者の動作における特性の概要	講義、スライド
14	関節リウマチ患者の動作における特性の評価	講義、スライド
15	神経筋疾患患者の動作における特性の概要	講義、スライド

回	テ ー マ	内 容		
16	神経筋疾患患者の動作における特性の評価	講義、スライド		
17	確認テスト③ (関節リウマチ、神経筋疾患患者)	講義、スライド		
18	高齢者の動作における特異性の概要①	講義、スライド		
19	高齢者の動作における特異性の概要②	講義、スライド		
20	高齢者の動作における特異性の評価①	講義、スライド		
21	高齢者の動作における特異性の評価②	講義、スライド		
22	確認テスト④ (高齢者)	講義、スライド		
23	異常歩行①	講義、スライド		
24	異常歩行②	講義、スライド		
25	異常歩行③	講義、スライド		
26	異常歩行④	講義、スライド		
27	異常歩行⑤	講義、スライド		
28	確認テスト⑤ (異常歩行)	講義、スライド		
29	試験	試験		
30	解説	解説		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
中村隆一 編著『臨床運動学』医歯薬出版.		期末試験 確認テスト	60.0% 40.0%	筆記試験と確認テストにて判定する。

回	テ ー マ	内 容		
				作成者: 森下 正憲
科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
理学療法管理学		理学療法科／3年	2026／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	森下 正憲（実務経験有）
授 業 の 概 要				
組織での理学療法部門は単独で機能しておらず、他職種との関係性を全体の枠組みの中でとらえていく必要がある。その為にも、理学療法部門の組織内での位置づけと役割、診療記録や他の記録の意義と運用、事故対応策などについて考察しながら、臨床現場における理学療法が効果的に実施できるためのマネジメントを学習する。【実務経験】病院勤務				
授業終了時の到達目標				
医療機関における理学療法部門の位置づけとチーム医療における役割を理解する。また、管理業務から臨床教育の基本について学び、臨床現場における理学療法が効果的に実施できるようプランを作成する。				
回	テ ー マ	内 容		
1	管理、マネジメント①	講義		
2	管理、マネジメント②	講義		
3	理学療法管理学①	講義		
4	理学療法管理学②	講義		
5	理学療法士の職業倫理①	講義		
6	理学療法士の職業倫理②	講義		
7	組織運営とマネジメント	講義		
8	理学療法士の職場管理①	講義		
9	理学療法士の職場管理②	講義		
10	理学療法業務のマネジメント	講義		
11	教育研究のマネジメント	講義		
12	保健制度と年金制度、雇用制度	講義		
13	生活保護制度、健康増進法	講義		
14	疾患別・病気別の理学療法マネジメント	講義		
15	試験・解説	試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・奈良勲編著 理学療法管理学 医歯薬出版株式会社		期末試験	100%	

回	テ ー マ	内 容
---	-------	-----

作成者: 茶谷 志保

科 目 名	学科／学年	年度／時期	授業形態
評価測定法Ⅰ	理学療法科／1年	2025／前期	講義・演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択
90分	15回	1単位（30時間）	必須
			茶谷 志保（実務経験有）

授 業 の 概 要

評価とは何かを考え、その中で血圧測定、形態測定、可動域測定の技術習得を目指していく。
【実務経験】施設勤務

授業終了時の到達目標

理学療法評価について理解し、調査・面接・問診を正しく行える
医学的・社会的情報収集を正確に行える
形態測定や血圧測定の評価方法を理解し、実技を正確に行える
関節可動域測定の評価方法を理解し、実技を正確に行える

回	テ ー マ	内 容
1	理学療法評価とは	講義、スライド
2	調査・面接・問診	講義、スライド
3	医学的・社会的情報収集	講義、スライド
4	形態測定。血圧測定について	講義、スライド
5	形態測定。血圧測定（実技）	講義・実技
6	形態測定。血圧測定（実技）	講義・実技
7	可動域について	講義・実技
8	可動域測定（実技）	講義・実技
9	可動域測定（実技）	講義・実技
10	可動域測定（実技）	講義・実技
11	可動域測定（実技）	講義・実技
12	可動域測定（実技）	講義・実技
13	可動域測定（実技）	講義・実技
14	可動域測定（実技）	講義・実技
15	試験	試験

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
Cynthia C. Norkin, D. Joyce White 著・木村哲彦 監訳『関節可動域測定法』協同医書出版社。 内山靖 編集『標準理学療法学 専門分野 理学療法評価学』医学書院。 野島元雄 監訳『図解 四肢と脊柱の診かた』医歯薬出版。 和才嘉昭・嶋田智明 著『測定と評価』医歯薬出版。	実習・実技評価 期末試験	50.0% 50.0%	筆記・実技試験によって判断。

回	テ ー マ	内 容
---	-------	-----

作成者:宮川 孝芳

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
評価測定法Ⅱ		理学療法科／1年	2025／後期	講義・演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位（60時間）	必須	宮川 孝芳

授 業 の 概 要

徒手筋力測定法について原理について解説する。また、上肢ならびに体幹の筋について機能解剖から徒手筋力測定法の実技までをレクチャーする。

授業終了時の到達目標

1. 筋の起始・停止およびその作用、支配神経を理解する。
2. 徒手筋力検査法について、その肢位や触診部位・抵抗のかけ方等を理解しながら習得する。

回	テ　　マ	内　　　　容		
1	徒手筋力検査の原理	講義		
2	徒手筋力検査の原理	講義		
3	徒手筋力検査の原理	講義		
4	徒手筋力検査の原理	講義		
5	徒手筋力検査法（上肢）	実技		
6	徒手筋力検査法（上肢）	実技		
7	徒手筋力検査法（上肢）	実技		
8	徒手筋力検査法（上肢）	実技		
9	徒手筋力検査法（上肢）	実技		
10	徒手筋力検査法（上肢）	実技		
11	徒手筋力検査法（下肢）	実技		
12	徒手筋力検査法（下肢）	実技		
13	徒手筋力検査法（下肢）	実技		
14	徒手筋力検査法（下肢）	実技		
15	徒手筋力検査法（下肢）	実技		
16	徒手筋力検査法（下肢）	実技		
17	徒手筋力検査法（肩甲帯）	実技		
18	徒手筋力検査法（肩甲帯）	実技		
19	徒手筋力検査法（肩甲帯）	実技		
20	徒手筋力検査法（肩甲帯）	実技		
21	徒手筋力検査法（体幹）	実技		
22	徒手筋力検査法（体幹）	実技		
23	徒手筋力検査法（体幹）	実技		
24	徒手筋力検査法（体幹）	実技		
25	徒手筋力検査法（体幹）	実技		
26	徒手筋力検査法（体幹）	実技		
27	実技試験	試験		
28	実技試験	試験		
29	筆記試験	試験		
30	筆記試験	試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
Helen J. Hislop, Jacqueline Montgomery著・津山直一 訳『新・徒手筋力検査法』協同医書出版社. 内山靖　編集『標準理学療法学　専門分野　理学療法評 価学』医学書院. 和才嘉昭・嶋田智明　著『測定と評価』医歯薬出版.		期末試験 実技試験	50.0% 50.0%	筆記試験、実技試 験にて評価

回	テ ー マ	内 容
---	-------	-----

作成者: 松本 昇

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
評価測定法Ⅲ		理学療法科／2年	2025／前期	講義・演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位（60時間）	必須	兼八勇治 川崎明浩 永松 佐々木

授 業 の 概 要

感覚検査、整形外科的手検査、痛み、筋緊張検査、協調性検査などを筆記面、実技面ともに学習し、各評価において、概論から各疾患に対する評価の選択が行えるようにする。

【実務経験】病院勤務

授業終了時の到達目標

感覚検査、整形外科的手検査、痛み、筋緊張検査、協調性検査などを筆記面、実技面ともに学習し、各評価において、概論から各疾患に対する評価の選択が行えるようにする。また、筆記面、実技面において知識、技術を習得する

回	テ　　マ	内　　　　　　容		
1	痛みの評価	講義、実技		
2	痛みの評価	講義、実技		
3	整形外科疾患検査	講義、実技		
4	整形外科疾患検査	講義、実技		
5	整形外科疾患検査	講義、実技		
6	整形外科疾患検査	講義、実技		
7	脳神経検査	講義、実技		
8	脳神経検査	講義、実技		
9	知覚検査	講義、実技		
10	知覚検査	講義、実技		
11	知覚検査	講義、実技		
12	知覚検査	講義、実技		
13	知覚検査	講義、実技		
14	知覚検査	講義、実技		
15	反射検査	講義、実技		
16	反射検査	講義、実技		
17	姿勢反射検査	講義、実技		
18	姿勢反射検査	講義、実技		
19	筋トーヌス検査	講義、実技		
20	筋トーヌス検査	講義、実技		
21	片麻痺機能検査	講義、実技		
22	片麻痺機能検査	講義、実技		
23	片麻痺機能検査	講義、実技		
24	片麻痺機能検査	講義、実技		
25	協調性検査	講義、実技		
26	協調性検査	講義、実技		
27	協調性検査	講義、実技		
28	協調性検査	講義、実技		
29	実技試験	試験		
30	筆記試験	試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
望月久著『最新　理学療法学講座　理学療法評価学』医 歯薬出版. 池田浩　編集『PT・OTの整形外科学』文光堂. 田崎義昭　著『ベッドサイドの神経の診かた　改訂18版』 南山堂.		筆記試験 実技試験	50.0% 50.0%	筆記試験、実技試 験にて評価

回	テ ー マ	内 容
---	-------	-----

作成者: 兼八 勇治

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
評価測定法演習Ⅰ		理学療法科／2年	2025／後期	演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位（15時間）	必須	兼八 勇治（実務経験有）

授 業 の 概 要

評価測定法で学習した内容を病院・施設に出向き、患者様、利用者を対象に演習を行い、レジュメ作成までの過程を学ぶ。臨床実習のプレ実習として行う。

【実務経験】松本昇（病院勤務）

授業終了時の到達目標

疾患を有する方に対して検査測定ができるようにする。
また、問題点を抽出し統合と解釈までをレジュメ作成から学ぶ。

回	テ ー マ	内 容
1	オリエンテーション	講義
2	症例準備①	講義、スライド
3	症例準備②	講義、スライド
4	症例評価①	外部実習
5	症例評価②	外部実習
6	レジュメ作成①	講義、スライド
7	レジュメ作成②	講義、スライド
8	まとめ	講義、スライド

教科書・教材		評価基準	評価率	その他
なし		演習評価 課題評価	50.0% 50.0%	

回	テ ー マ	内 容
---	-------	-----

作成者:北野 剛士

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
評価測定法演習Ⅱ		理学療法科／3年	2026／前期	演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	8回	1単位（15時間）	必須	北野 剛士（実務経験有）

授 業 の 概 要

臨床実習Ⅱで得られた経験と情報を基に症例発表を行い、教員と振り返りを実施する。
また、臨床推論から治療実践までの過程を学習する。
【実務経験】松本昇（病院勤務）

授業終了時の到達目標

症例発表を通じて統合と解釈について理解する。
治療実践までの過程を学び、理解する。

回	テ　　マ	内　　　　容		
1	症例発表①	講義		
2	症例発表②	講義		
3	理学療法評価①	講義		
4	理学療法評価②	講義		
5	包括的な分析方法	講義		
6	治療実践①	講義・演習		
7	治療実践②	講義・演習		
8	まとめ	講義・演習		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
なし		演習評価	50.0%	
		課題評価	50.0%	

回	テ ー マ	内 容
---	-------	-----

作成者：川崎 明浩

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
運動療法		理学療法科／2年	2025／前期	講義・演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位（60時間）	必須	川崎 明浩（実務経験有）

授 業 の 概 要

各種運動療法の基礎的理論を解説し、どのような障害に対して有効かを教授する。また、禁忌や注意点、リスク等についても併せて紹介する。

〔実務経験〕 病院および介護老人保健施設等 勤務

授業終了時の到達目標

運動療法に必要な知識と技術を習得し、臨床で実施する基本的な運動療法手技について、その適応ならびに禁忌を学習する。併せて、リスク管理についても考えながら安全かつ効率的な方法を習得する。

回	テ ー マ	内 容
1	運動療法総論①	講義：歴史
2	運動療法総論②	講義：運動療法の種類
3	関節運動の基礎	講義：関節の構造と運動
4	関節の障害	講義：関節拘縮
5	関節に対する運動療法①	講義・演習：関節モビライゼーション
6	関節に対する運動療法②	講義・演習：関節可動域練習
7	筋収縮の基礎①	講義：筋収縮のメカニズム
8	筋収縮の基礎②	講義：筋収縮の様態
9	筋の障害	講義：筋萎縮および筋力低下
10	筋に対する運動療法①	講義：演習：筋力増強トレーニング
11	筋に対する運動療法②	講義：演習：筋持久力トレーニング
12	筋に対する運動療法③	講義：演習：ストレッチ
13	随意運動の基礎	講義：随意運動のメカニズム
14	反射の基礎	講義：反射のメカニズム
15	随意運動の障害①	講義：中枢神経発達の階層段階
16	随意運動の障害②	講義：ブルンストロームの概念

回	テ ー マ	内 容		
17	随意運動に関する運動療法	講義：反射抑制および随意運動の促通（ブルンストローム・PNF その他）		
18	運動制御と運動学習の基礎①	講義：中枢性の運動制御		
19	運動制御と運動学習の基礎②	講義：末梢性の運動制御（股関節・足関節戦略など）		
20	運動制御と運動学習の障害①	講義：錐体街路系障害（運動失調等の小脳系を中心とした障害）		
21	運動制御と運動学習の障害②	講義：錐体街路系障害（パーキンソン病等の大脳基底核を中心とした障害）		
22	運動制御と運動学習に関する運動療法①	講義・演習：姿勢保持・バランス保持練習		
23	運動制御と運動学習に関する運動療法②	講義・演習：協調運動		
24	運動と呼吸の基礎	講義：運動と呼吸の関係について		
25	呼吸障害	講義：運動療法の適用がある呼吸障害		
26	呼吸障害に対する運動療法	講義・演習：呼吸障害に対する運動療法（体位排痰法、腹式呼吸など）		
27	運動と代謝の基礎	講義：運動と代謝の関係について		
28	代謝障害	講義：運動療法の適用がある代謝障害		
29	代謝障害に対する運動療法	講義・演習：代謝障害に対する運動療法（有酸素運動を用いた運動療法）		
30	期末試験	試験・解説		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・吉尾雅春 編集『標準理学療法学 専門分野 運動療法学総論』医学書院.		期末試験	100%	

回	テ ー マ	内 容
---	-------	-----

作成者: 竹村 繭美

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
物理療法		理学療法科／2年	2025／後期	講義・演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	竹村 繭美（実務経験有）

授 業 の 概 要

適切な物理療法が行えるよう各療法について、機器などの物理的特性、生体に及ぼす生理学的作用、効果と適応、手技、リスク管理などを中心に教授する。

【実務経験】病院勤務

授業終了時の到達目標

適切な物理療法が行えるよう各療法について、機器などの物理的特性、生体に及ぼす生理学的作用、効果、適応を理解するとともに手技やリスク管理等を習得する。

回	テ ー マ	内 容
1	物理療法総論（定義・目的・歴史）	講義・演習
2	牽引療法（頸椎）	講義・演習
3	〃（腰椎）、CPM	講義・演習
4	水治療法	講義・演習
5	〃	講義・演習
6	寒冷療法	講義・演習
7	〃	講義・演習
8	寒冷による痙性抑制メカニズム	講義・演習
9	光線療法（紫外線、赤外線）	講義・演習
10	〃	講義・演習
11	光線療法実習	講義・演習
12	電気療法	講義・演習
13	温熱療法	講義・演習
14	温熱療法	講義・演習
15	試験・解説	試験・解説

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
・網本和 編著『標準理学療法学 専門分野 物理療法』医学書院. ・嶋田智明・高見正利 他編『物理療法マニュアル』医歯薬出版.	期末試験	100%	

回	テ ー マ		内 容	
作成者: 今井 歩				
科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
装具学		理学療法科／2年	2025／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	今井 歩（実務経験有）
授 業 の 概 要				
装具に関する基本的事項を学習し、各種装具の特性と構造を紹介する。				
〔実務経験〕 義肢製作所勤務				
授業終了時の到達目標				
本講義では、適合、装着、操作指導の技術を習得することを目的とする。加えて、装具の構造と機能について理解するとともに臨床での装具選択のポイントを習得する。				
回	テ ー マ		内 容	
1	ガイダンス・装具療法総論		講義、スライド	
2	下肢装具1		講義、スライド	
3	下肢装具2		講義、スライド	
4	下肢装具3		講義、スライド	
5	下肢装具4		講義、スライド	
6	上肢装具1		講義、スライド	
7	上肢装具2		講義、スライド	
8	上肢装具3		講義、スライド	
9	上肢装具4		講義、スライド	
10	体幹装具1		講義、スライド	
11	体幹装具2		講義、スライド	
12	体幹装具3		講義、スライド	
13	体幹装具4		講義、スライド	
14	まとめ		講義、スライド	
15	試験		試験	
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
加倉井周一 編『装具学』医歯薬出版. 加倉井周一・初山泰弘・渡辺英夫 編『装具治療マニュアル』医歯薬出版.		期末試験	100.0%	期末試験にて評価します

回	テ ー マ		内 容	
			作成者: 今井 歩	
科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
義肢学		理学療法科／2年	2025／前期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	今井 歩（実務経験有）
授 業 の 概 要				
義肢に関する基本的事項を学習し、各種義肢の特性と構造を紹介する。				
[実務経験] 義肢製作所勤務				
授業終了時の到達目標				
本講義では切断と義肢について基礎理論を理解するとともに、適合技術や日常生活の指導に至るまでを習得する。				
回	テ ー マ		内 容	
1	切断と義肢の歴史		講義、スライド	
2	切断術		講義、スライド	
3	大腿義足①ソケット		講義、スライド	
4	大腿義足②膝継手、足継手		講義、スライド	
5	大腿義足③チェックアウト		講義、スライド	
6	大腿義足④チェックアウト		講義、スライド	
7	下腿義足①ソケット		講義、スライド	
8	下腿義足②足継手		講義、スライド	
9	下腿義足③チェックアウト		講義、スライド	
10	下腿義足④チェックアウト		講義、スライド	
11	股義足①ソケット		講義、スライド	
12	股義足②チェックアウト		講義、スライド	
13	サイム～足部義足		講義、スライド	
14	術直後義肢装着法		講義、スライド	
15	試験		試験	
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
澤村誠志 編『義肢学』医歯薬出版. 細田多穂 編著『下肢切断の理学療法』医歯薬出版.		期末試験	100.0%	期末試験にて評価する。

回	テ ー マ	内 容
---	-------	-----

作成者:小西 大海

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
日常生活活動		理学療法科／1年	2025／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位（60時間）	必須	小西 大海（実務経験有）

授 業 の 概 要

日常生活動作（ADL）は、人間の生存するための最も基本的な活動（動作）である。この概念や内容を理解することで、異常動作との違いを評価分析することに繋がるように学習を行う。

[実務経験] 病院勤務

授業終了時の到達目標

日常生活動作（ADL）を知り、基本動作を中心に動作のメカニズムを講義と実技から学びます。

回	テ　　マ	内　　　　容		
1	A D L の概念と範囲	講義		
2	ADLとQOL	講義		
3	ADL動作	講義、演習		
4	ADL動作	講義、演習		
5	ADL動作	講義、演習		
6	ADL動作	講義、演習		
7	ADL動作	講義、演習		
8	ADL動作	講義、演習		
9	ADL動作	講義、演習		
10	ADL動作	講義、演習		
11	ADL動作	講義、演習		
12	ADL動作	講義、演習		
13	ADL動作	講義、演習		
14	ADL動作	講義、演習		
15	ADL動作	講義、演習		
16	ADL動作	講義、演習		
17	ADL動作	講義、演習		
18	ADL動作	講義、演習		
19	ADL動作	講義、演習		
20	ADL動作	講義、演習		
21	ADL動作	講義、演習		
22	ADL動作	講義、演習		
23	ADL動作	講義、演習		
24	ADL動作	講義、演習		
25	ADL動作	講義、演習		
26	ADL動作	講義、演習		
27	IADLに必要な動作①	講義、演習		
28	IADLに必要な動作②	講義、演習		
29	IADLに必要な動作③	講義、演習		
30	試験	試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
細田多穂　監修『日常生活活動学テキスト』南江堂. 石井慎一郎　編著『動作分析　臨床活用講座』メジカルビュー社. 千住秀明　監修『理学療法学テキストⅤ日常生活活動(ADL)　第2版』神陵文庫. 鶴見隆正　編集『標準理学療法学　専門分野　日常生活活動学・生活環境学　第2版』医学書院.		期末試験	100%	

回	テ	マ	内	容
---	---	---	---	---

作成者：川崎 明浩

科目名		学科／学年	年度／時期	授業形態
理学療法治療学Ⅰ		理学療法科／2年	2025／後期	講義・演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位（60時間）	必須	川崎昭浩（実務経験有）

授業の概要

本授業は、整形外科を中心とした疾患の理学療法について学習する。実際の臨床において必要とされる評価、理学療法アプローチ、リスク管理について学習し、実践できることを目指す。

【実務経験】病院勤務

授業終了時の到達目標

代表的な整形外科疾患の病態を説明できる。
代表的な整形外科疾患に対する検査測定項目を立案・実施できる。
代表的な整形外科疾患に対する理学療法評価を実施できる。
代表的な整形外科疾患に対する理学療法治療を立案できる。

回	テ　　マ	内　　　容		
1	骨折①	講義、演習、実技		
2	骨折②	講義、演習、実技		
3	高齢者の骨折①	講義、演習、実技		
4	高齢者の骨折②	講義、演習、実技		
5	腰痛症・腰椎椎間板ヘルニア①	講義、演習、実技		
6	腰痛症・腰椎椎間板ヘルニア②	講義、演習、実技		
7	頰椎・腰椎術後療法①	講義、演習、実技		
8	頰椎・腰椎術後療法②	講義、演習、実技		
9	側弯症	講義、演習、実技		
10	変形性股関節症（THA術後療法）①	講義、演習、実技		
11	変形性股関節症（THA術後療法）②	講義、演習、実技		
12	変形性股関節症（THA術後療法）③	講義、演習、実技		
13	変形性膝関節症（TKA術後療法）①	講義、演習、実技		
14	頰肩腕症候群（肩関節周囲炎を含む）①	講義、演習、実技		
15	頰肩腕症候群（肩関節周囲炎を含む）②	講義、演習、実技		
16	胸郭出口症候群・乳がん（手術後）	講義、演習、実技		
17	胸郭出口症候群・乳がん（手術後）	講義、演習、実技		
18	腱板断裂①	講義、演習、実技		
19	腱板断裂②	講義、演習、実技		
20	末梢循環障害①	講義、演習、実技		
21	末梢循環障害②	講義、演習、実技		
22	スポーツ外傷、ACL　半月板損傷①	講義、演習、実技		
23	スポーツ外傷、ACL　半月板損傷②	講義、演習、実技		
24	関節リウマチ①	講義、演習、実技		
25	関節リウマチ②	講義、演習、実技		
26	切断と義肢①	講義、演習、実技		
27	切断と義肢②	講義、演習、実技		
28	熱傷	講義、演習、実技		
29	試験	試験		
30	解説	解説		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
【参考書】 吉尾雅春 編集 『標準理学療法学 専門分野 運動療 法学 各論 第4版』医学書院. 池田浩 他『PT・OTの整形外科学』文光堂. 加藤浩 他『crosslinks 理学療法テキスト 運動器 障害理学療法学』メジカルビュー.		期末試験 確認テスト	70.0% 30.0%	筆記試験によって 判断

回	テ ー マ	内 容
---	-------	-----

作成者: 兼八 勇治

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
理学療法治療学Ⅱ		理学療法科／2年	2025／後期	講義・演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位（60時間）	必須	兼八 勇治（実務経験有）

授 業 の 概 要

本授業では、脳血管障害を中心とした中枢神経疾患の理学療法について学ぶ。

【実務経験】 病院・学校勤務

授業終了時の到達目標

- 1) 脳血管障害・パーキンソン病の臨床像(病態・画像診断・治療を含む)を説明することができる。
- 2) 脳血管障害・パーキンソン病に対する理学療法評価を行うことができる。
- 3) 脳血管障害・パーキンソン病患者の基本動作の分析と誘導を行うことができる。
- 4) 脳血管障害・パーキンソン病の各病期に応じた基本的理学療法を実施することができる。

回	テ ー マ	内 容
1	脳血管障害概論1	講義、実技、演習
2	脳血管障害概論2	講義、実技、演習
3	脳血管障害概論3	講義、実技、演習
4	脳血管障害の臨床像	講義、実技、演習
5	脳血管障害に対する評価概論1	講義、実技、演習
6	脳血管障害に対する評価概論2	講義、実技、演習
7	確認テスト① (脳血管障害概論、脳血管障害の臨床像、 評価概論)	講義、実技、演習
8	脳血管障害;臥位レベルの評価と治療1	講義、実技、演習
9	脳血管障害;臥位レベルの評価と治療2	講義、実技、演習
10	脳血管障害;臥位レベルの評価と治療3	講義、実技、演習
11	脳血管障害;座位レベルの評価と治療1	講義、実技、演習
12	脳血管障害;座位レベルの評価と治療2	講義、実技、演習
13	脳血管障害;座位レベルの評価と治療3	講義、実技、演習
14	脳血管障害;立位レベルの評価と治療1	講義、実技、演習
15	脳血管障害;立位レベルの評価と治療2	講義、実技、演習
16	確認テスト② (脳血管障害;各レベルの評価と治療)	講義、実技、演習

回	テ ー マ	内 容		
17	脳血管障害;歩行の評価と治療1	講義、実技、演習		
18	脳血管障害;歩行の評価と治療2	講義、実技、演習		
19	下肢装具の復習と歩行分析1	講義、実技、演習		
20	下肢装具の復習と歩行分析2	講義、実技、演習		
21	肩の問題と摂食嚥下の問題について	講義、実技、演習		
22	確認テスト③ (脳血管障害の歩行、下肢装具、肩の問題 と摂食嚥下の問題)	講義、実技、演習		
23	高次脳機能障害に対するアプローチ1	講義、実技、演習		
24	高次脳機能障害に対するアプローチ2	講義、実技、演習		
25	脳卒中ガイドラインについて	講義、実技、演習		
26	パーキンソン病の病態・臨床像概論1	講義、実技、演習		
27	パーキンソン病の病態・臨床像概論2	講義、実技、演習		
28	パーキンソン病に対する理学療法1	講義、実技、演習		
29	パーキンソン病に対する理学療法2	講義、実技、演習		
30	確認テスト④ (高次機能障害、脳卒中ガイドライン、 パーキンソン病)	講義、実技、演習		
参考書・教材		評価基準	評価率	その他
「リハ実践テクニック 脳卒中」		期末試験 確認テスト	60.0% 40.0%	筆記試験と確認テ ストによって判 断。

回	テ ー マ	内 容
---	-------	-----

作成者:宮川 孝芳

科 目 名	学科／学年	年度／時期	授業形態
理学療法治療学Ⅲ	理学療法科／2年	2025／後期	講義・演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択
90分	15回	1単位（30時間）	必須
			担当教員
			宮川 孝芳

授 業 の 概 要

脊髄損傷患者の臨床症状や障害の状態を学習し、頸髄損傷による四肢麻痺患者、胸腰髄損傷による対麻痺患者に対する評価、理学療法について理解を深める。

授業終了時の到達目標

- 1) 脊髄障害による各種の臨床症状や障害の状態を理解する。
- 2) 四肢麻痺患者に対する急性期・回復期の理学療法の意義と目的、基本的な理学療法の方法を理解する。
- 3) 対麻痺患者に対する急性期・回復期の理学療法の目的と介入方法について理解する。
- 4) 脊髄損傷が社会参加するための生活環境整備の工夫を知り、生活機能向上のための理学療法を理解する。

回	テ ー マ	内 容
1	脊髄損傷の基礎知識	講義
2	脊髄の解剖及び機能	講義
3	脊髄損傷患者の心理状況	講義
4	脊髄損傷患者に伴う合併症①	講義 痙縮、褥瘡、自律神経過反射、各種調節障害など
5	脊髄損傷患者に伴う合併症②	講義 起立性低血圧、異所性骨化、排尿・排便障害、
6	脊髄損傷患者における	講義、演習
7	脊髄損傷患者における	講義、演習
8	急性期（安静固定期）の理学療法①	講義、演習
9	回復期（離床期）の理学療法①	講義、演習
10	回復期（離床期）の理学療法②	講義、演習
11	脊髄損傷患者のADLと車いすの適合	講義、演習
12	社会復帰に関する知識	講義、演習
13	再生医療と障害スポーツの理解	講義、演習
14	グループワーク	講義、演習 事例を通じたケーススタディー
15	まとめ	講義、演習 過去の国家試験出題問題やポイントの整理

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
・細田多穂 監修 シンプル理学療法学シリーズ神経筋障害理学療法学テキスト ・細田多穂、柳澤 健 編集 理学療法ハンドブック（第3巻）	期末試験 グループワーク	90.0% 10.0%	

回	テ ー マ	内 容
---	-------	-----

作成者: 松本 昇

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
理学療法治療学Ⅳ		理学療法科／2年	2025／後期	講義・演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	30回	2単位（60時間）	必須	松本 昇（実務経験有）

授 業 の 概 要

罹患率が高い内部障害疾患に関して、成因、症状の理解を基に理学療法的治療アプローチを講義、実技を元に学ぶ。【実務経験】病院勤務

授業終了時の到達目標

循環器および呼吸器、代謝系疾患の理学療法が行えるようになるため、必要な知識を身につけることを目的とする。具体的には、生活習慣病患者の増加とともに急増している狭心症や心筋梗塞を始めとする循環器系疾患や呼吸器疾患、糖尿病などの代謝系疾患の理学療法について学ぶ。これらの疾患は、理学療法中に生命にかかわる場合もあり、正しい知識の習得が重要である。そのため、病態の理解、測定・検査法と評価法、目標設定と理学療法の治療計画、リスク管理、治療効果など、理学療法の基本原則と

回	テ　　マ	内　　　　　　容		
1	オリエンテーション	講義、演習、実技		
2	循環器疾患①	講義、演習、実技		
3	循環器疾患②	講義、演習、実技		
4	循環器疾患③	講義、演習、実技		
5	循環器疾患④	講義、演習、実技		
6	循環器疾患⑤	講義、演習、実技		
7	循環器疾患⑥	講義、演習、実技		
8	呼吸器疾患①	講義、演習、実技		
9	呼吸器疾患②	講義、演習、実技		
10	呼吸器疾患③	講義、演習、実技		
11	呼吸器疾患④	講義、演習、実技		
12	呼吸器疾患⑤	講義、演習、実技		
13	呼吸器疾患⑥	講義、演習、実技		
14	消化器疾患①	講義、演習、実技		
15	消化器疾患②	講義、演習、実技		
16	消化器疾患③	講義、演習、実技		
17	消化器疾患④	講義、演習、実技		
18	消化器疾患⑤	講義、演習、実技		
19	肝・胆疾患①	講義、演習、実技		
20	肝・胆疾患②	講義、演習、実技		
21	肝・胆疾患③	講義、演習、実技		
22	肝・胆疾患④	講義、演習、実技		
23	泌尿器疾患①	講義、演習、実技		
24	泌尿器疾患②	講義、演習、実技		
25	泌尿器疾患③	講義、演習、実技		
26	生殖器疾患①	講義、演習、実技		
27	生殖器疾患②	講義、演習、実技		
28	生殖器疾患③	講義、演習、実技		
29	総まとめ	講義、演習、実技		
30	試験	試験・解説		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
・『標準理学療法学・作業療法学 専門分野 内部障害理学療法学』医学書院. ・病気がみえる 1 消化器 MEDIC MEDIA ・病気がみえる 2 循環器 MEDIC MEDIA ・病気がみえる 3 糖尿病・代謝・内分泌 MEDIC MEDIA ・病気がみえる 4 呼吸器 MEDIC MEDIA		期末試験	100%	

回	テ ー マ	内 容
---	-------	-----

作成者：竹村繭美

科 目 名	学科／学年	年度／時期	授業形態
理学療法治療学Ⅴ	理学療法科／2年	2025／後期	講義・演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択
90分	15回	1単位（30時間）	必須
竹村繭美（実務経験有）			

授 業 の 概 要

代表的な神経筋疾患について成因、症状の理解を基に理学療法的治療アプローチを講義、実技を元に学ぶ。

【実務経験】病院勤務

授業終了時の到達目標

- 1) 小脳性運動失調に対する理学療法の基本的な考え方と実際について理解する。
- 2) 神経難病の特性をふまえたうえで、それぞれの病態を理解する。
- 3) 神経難病の進行状況を把握するための病態評価方法や理学療法のあり方を理解する。

回	テ ー マ	内 容
1	運動失調（症）の定義と分類	講義、演習
2	小脳性運動失調症の病態と症状	講義、演習
3	小脳性運動失調の評価	講義、演習
4	小脳性運動失調の理学療法 1	講義、演習
5	小脳性運動失調の理学療法 2	講義、演習
6	多発性硬化症の病態と症状	講義、演習
7	多発性硬化症の評価と理学療法	講義、演習
8	ALSの病態と症状	講義、演習
9	ALSの評価と理学療法	講義、演習
10		講義、演習
11	確認テスト②	講義、演習
12	多発性筋炎について	講義、演習
13	重症筋無力症について	講義、演習
14	確認テスト③	講義、演習
15	試験	試験

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
病気がみえる「脳・神経」	期末試験 確認テスト	60.0% 40.0%	期末試験と確認テストにて判定する。

回	テ ー マ	内 容
---	-------	-----

作成者: 杉本 和彦

科 目 名	学科／学年	年度／時期	授業形態
理学療法治療学Ⅵ	理学療法科／2年	2025／後期	講義・演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	杉本 和彦（実務経験有）

授 業 の 概 要

- ・脳性麻痺、筋ジス、二分脊椎、発達障害などの病態、症状を学ぶ。
 - ・脳性麻痺、筋ジス、二分脊椎、発達障害などの評価と理学療法について学ぶ。
- 【実務経験】 病院・学校

授業終了時の到達目標

- 1) 脳性麻痺の病態・臨床像を理解する
- 2) 脳性麻痺児・者に対する理学療法の評価と治療の概略を理解する
- 3) 筋ジス・二分脊椎・発達障害の臨床像と理学療法について理解する
- 4) 正常発達、小児理学療法に関する知識を復習し、国家試験レベルの課題は8割以上理解することができる

回	テ ー マ	内 容
1	脳性麻痺に対する評価概論	講義、演習
2	脳性麻痺に対する評価 (ビデオ分析を通じて)1	講義、演習
3	脳性麻痺に対する評価 (ビデオ分析を通じて)2	講義、演習
4	脳性麻痺に対する評価 (ビデオ分析を通じて)3	講義、演習
5	脳性麻痺に対する治療の考え方 (ビデオ分析を通じて)1	講義、演習
6	脳性麻痺に対する治療の考え方 (ビデオ分析を通じて)2	講義、演習
7	脳性麻痺に対する治療の考え方 (ビデオ分析を通じて)3	講義、演習
8	確認テスト① (脳性まひ)	講義、演習
9	重症心身障害児・者に対する理学療法について1	講義、演習
10	重症心身障害児・者に対する理学療法について2	講義、演習
11	筋ジストロフィーの理学療法について1	講義、演習
12	筋ジストロフィーの理学療法について2	講義、演習
13	二分脊椎の理学療法について	講義、演習
14	小児の整形疾患について 発達障害について	講義、演習
15	確認テスト② (重症心身障害児者、筋ジストロフィー、二分脊椎、小児の整形疾患、発達障害)	講義、演習

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
河村 光俊 著『小児の理学療法』医歯薬出版. 今川忠男『脳性麻痺児の24時間姿勢ケア』三輪書店.	期末試験 確認テスト	60.0% 40.0%	筆記試験と確認テストによって判断。

回	テ ー マ	内 容		

回	テ ー マ	内 容
---	-------	-----

作成者: 茶谷 志保

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
福祉住環境論		理学療法科／1年	2025／後期	講義
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1単位（30時間）	必須	茶谷 志保（実務経験有）

授 業 の 概 要

暮らしやすい生活環境を考え、個々に必要な住環境整備や福祉用具について学んでいく。
【実務経験】病院勤務

授業終了時の到達目標

地域リハビリテーションの概念を学び、基礎的なシステムや展開論を幅広く学習する。地域理学療法と病院・施設などにおける理学療法との違いを理解する。
福祉住環境コーディネーターの資格取得を目指す。

回	テ　　マ	内　　　　容		
1	福祉住環境コーディネーターとは？	講義、スライド		
2	暮らしやすい生活環境を目指して	講義、スライド		
3	第1章　過去問	講義、スライド		
4	健康と自立をめざして	講義、スライド		
5	第2章過去問	講義、スライド		
6	バリアフリーとユニバーサルデザイン	講義、スライド		
7	第3章過去問	講義、スライド		
8	安心・安全・快適な住まい	講義、スライド		
9	第4章過去問	講義、スライド		
10	安心できる住生活とまちづくり	講義、スライド		
11	第5章過去問	講義、スライド		
12	過去問①	講義、スライド		
13	復習	講義、スライド		
14	過去問②	講義、スライド		
15	試験	試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
奈良勲　監修『標準理学療法学　地域理学療法学』医学書院. 奈良勲　監修『標準理学療法学　日常生活活動学・生活環境学』医学書院 福祉住環境コーディネーター　検定試験　3級公式テキスト		期末試験	100.0%	

回	テ ー マ	内 容
---	-------	-----

作成者: 松本昇

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
医療的ケア		理学療法科／3年	2026／後期	講義・演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	1 単位（30時間）	必須	松本 昇（実務経験有）

授 業 の 概 要

保健医療福祉とリハビリテーションの観点から、疾患別、障害別理学療法法の適用に関する知識と技術（喀痰等の吸引を含む）を修得し、対象者の自立生活を支援するために必要な課題解決能力を培う。

〔実務経験〕 病院勤務

授業終了時の到達目標

安全に医療的ケアを実施するために、必要な基本的知識を身につけことができる。
「喀痰吸引」「経管栄養」の実施手順に従って、それぞれの技術を実施できる。

回	テ ー マ	内 容
1	高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論 1	講義・演習
2	高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論 2	講義・演習
3	高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論 3	講義・演習
4	高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論 4	講義・演習
5	高齢者及び障害児・者の喀痰吸引実施手順	講義・演習
6	高齢者及び障害児・者の喀痰吸引実施手順	講義・演習
7	高齢者及び障害児・者の経管栄養概論 1	講義・演習
8	高齢者及び障害児・者の経管栄養概論 2	講義・演習
9	高齢者及び障害児・者の経管栄養概論 3	講義・演習
10	高齢者及び障害児・者の経管栄養概論 4	講義・演習
11	高齢者及び障害児・者の経管栄養概論 5	講義・演習
12	高齢者及び障害児・者の経管栄養実施手順	講義・演習
13	高齢者及び障害児・者の経管栄養実施手順	講義・演習
14	総まとめ	講義・演習
15	試験	試験

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
・テキスト：『介護職員等による喀痰吸引・経管栄養研修テキスト』中央法規出版 * 参考文献については、その都度提示する。	期末試験	100.0%	

回	テ ー マ	内 容
---	-------	-----

作成者: 松本昇

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
地域理学療法論Ⅰ		理学療法科／１年	2025／後期	講義・演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
90分	15回	2単位（30時間）	必須	小林 裕和（実務経験有）

授 業 の 概 要

高齢者の身体的特徴と在宅生活について学んでいく

〔実務経験〕施設勤務

授業終了時の到達目標

地域福祉論で学んだ知識をいかし、地域社会（在宅）における理学療法の進め方を学習する。地域理学療法と病院・施設などにおける理学療法との違いを理解する。

回	テ　　マ	内　　　　容		
1	地域理学療法とは	講義、スライド		
2	地域における理学療法士の役割 （行政における理学療法士の役割）	講義、スライド		
3	介護保険と医療保険①	講義、スライド		
4	介護保険と医療保険②	講義、スライド		
5	入所サービスについて	講義、スライド		
6	通所サービスについて	講義、スライド		
7	訪問リハビリについて	講義、スライド		
8	予防リハビリについて	講義、スライド		
9	成人障がい者施設での取り組み	講義、スライド		
10	小児施設での取り組み	講義、スライド		
11	住宅改修について	講義、スライド		
12	福祉用具について	講義、スライド		
13	シーティング（ポジショニング）①	講義、スライド		
14	シーティング（ポジショニング）②	講義、スライド		
15	試験	試験		
教科書・教材		評価基準	評価率	その他
鶴見隆正・大淵修一　責任編集　『健康増進と介護 予防』三輪書店. 奈良勲　監修『標準理学療法学　地域理学療法学』 医学書院 奈良勲　監修『標準理学療法学　日常生活活動学・ 生活環境学』医学書院.		期末試験	100.0%	筆記試験

回	テ ー マ	内 容
---	-------	-----

作成者: 兼八 勇治

科 目 名	学科／学年	年度／時期	授業形態
地域理学療法論Ⅱ	理学療法科／2年	2025／後期	講義・演習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択
90分	15回	1単位（30時間）	必須
			森下 正憲（実務経験有）

授 業 の 概 要

地域理学療法Ⅰで学んだことを活かし、より地域理学療法を学びます。また、各疾患において地域理学療法として正しい知識や技術を選択できるようにします。

〔実務経験〕施設勤務

授業終了時の到達目標

地域福祉論で学んだ知識をいかし、地域社会（在宅）における理学療法の進め方を学習する。地域理学療法と病院・施設などにおける理学療法との違いを理解する。

回	テ ー マ	内 容
1	高齢者とは	講義、スライド
2	健康状態の評価	講義、スライド
3	体力増進とリスク管理	講義、スライド
4	脳血管障害	講義、スライド
5	骨折	講義、スライド
6	慢性呼吸不全	講義、スライド
7	神経変性疾患	講義、スライド
8	脊髄損傷	講義、スライド
9	成人脳性麻痺	講義、スライド
10	認知症	講義、スライド
11	終末期における理学療法	講義、スライド
12	小児理学療法	講義、スライド
13	障がい者スポーツ①	講義、スライド
14	障がい者スポーツ②	実技
15	試験	試験

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
鶴見隆正・大淵修一 責任編集 『健康増進と介護予防』三輪書店. 奈良勲 監修『標準理学療法学 地域理学療法学』医学書院 奈良勲 監修『標準理学療法学 日常生活活動学・生活環境学』医学書院.	期末試験	100.0%	筆記試験

回	テ	ー	マ	内	容
---	---	---	---	---	---

作成者：川崎昭浩

科 目 名		学科／学年	年度／時期	授業形態
臨床実習Ⅰ		理学療法科／1年	2025／前期	外部実習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択	担当教員
	1回	1単位（40時間）	必須	川崎昭浩（実務経験有） 兼八勇治（実務経験有） 松本昇（実務経験有） 宮川孝芳（実務経験有）

授 業 の 概 要

臨床実習として現場に赴き、臨床場面の実態を知り、専門家としての心構えと基本的なスキルの獲得を目指す。

施設・診療所・病院等で実習を行う。

【実務経験】杉本はるか（病院勤務）、兼八勇治（病院勤務）、松本昇（病院勤務）、井崎義己（病院勤務）

臨床実習に赴き、臨床場面の実態を知り、臨床家としての心構えと基本的なスキルを身につける。

授業計画

1. 施設

実習施設：学生自身の希望を参考に科内協議した施設

実習期間：1回

2. 臨床実習

協力施設において、臨床実習指導者の指導・監督の下、臨床場面での理学療法士としての心構えと役割について理解を深める。また、解剖学、生理学、運動学、臨床医学等の知識を駆使し、対象者の障害像に迫る。

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
必要な教材に関しては自分で準備をする。	実習目標の到達度 報告会等による評価		各臨床実習指導者の評価と学内成績のトータルで判断する。

回	テ ー マ	内 容
---	-------	-----

作成者: 兼八 勇治

科 目 名	学 科 / 学 年	年 度 / 時 期	授 業 形 態
臨床実習Ⅱ	理学療法科 / 2年	2025 / 後期	外部実習
授 業 時 間	回 数	単 位 数 (時 間 数)	必 須 ・ 選 択
	1回	4単位 (180時間)	必須
兼八 勇治 (実務経験有) 竹村 繭美 (実務経験有) 川崎昭浩 (実務経験有) 宮川 孝芳 (実務経験有)			

授 業 の 概 要

臨床実習Ⅰと同様に、臨床場面の実態を知り、専門家としての心構えと基本的なスキルの獲得を目指す。また、理学療法の評価・治療までの一連の流れを経験する。
施設・診療所・病院等で実習を行う。

【実務経験】松本昇 (病院勤務)、竹村繭美 (病院勤務)、兼八勇治 (病院勤務)、井崎義己 (病院・施設勤務)

授 業 終 了 時 の 到 達 目 標

臨床実習に赴き、臨床実習Ⅰの成果を踏まえ、実際に患者等に関わることにより、問診から各評価の技術を高める。また、結果の統合と解釈の仕方を習得し、臨床実習Ⅲにつなげる。

授 業 計 画

1. 施設

実習施設：学生自身の希望を参考に科内協議した施設

実習期間：1回

2. 臨床実習

- 臨床実習指導者の監督や助言の下で、対象者に合わせた評価項目を選択・実施し、統合と解釈を行い、問題点を抽出し、目標設定を行い、治療プログラム立案までの過程を経験する。
- 専任教員が適宜訪問し、学生の実習態度や実習目標達成度を把握する。専任教員が訪問した時には、実習指導者や学生から実習の進捗状況について確認する。また、事前に問題が発生した場合には、指導者から専任教員へ連絡をしてもらい、問題解決に向けたディスカッションの時間を設ける。
- 臨床現場での実習時間は8時間/日だが、1時間/日は対象者に関する振り返り時間とする。
- 実習前と実習後に実技評価を行い、学習効果を確認する。

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
必要な教材に関しては自分で準備をする。	実習目標の到達度 実習前と実習後の実技評価 報告会等による評価		各臨床実習指導者の評価と学内成績のトータルで判断する。

回	テ ー マ	内 容
---	-------	-----

作成者: 松本 昇

科 目 名	学科／学年	年度／時期	授業形態
臨床実習Ⅲ-①	理学療法科／3年	2025／前期	外部実習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択
	1回	8単位（360時間）	必須
担当教員 松本 昇（実務経験有） 竹村 繭美（実務経験有） 兼八 勇治（実務経験有） 川崎昭浩（実務経験有）			

授 業 の 概 要

臨床実習Ⅱと同様に、臨床場面の実態を知り、専門家としての心構えと基本的なスキルの獲得を目指す。また、理学療法の評価・治療までの一連の流れを経験できる。

【実務経験】松本昇（病院勤務）、竹村繭美（病院勤務）、兼八勇治（病院勤務）、井崎義己（病院・施設勤務）

授業終了時の到達目標

臨床実習指導者の指導・監督の下、理学療法評価からプログラム実施までの一連の理学療法プロセスを経験する。また、対象者の経過観察を行い、介入前後での比較を分析することができる。

授業計画

1. 施設

実習施設：学生自身の希望を参考に科内協議した施設

実習期間：1回

2. 臨床実習

- 臨床実習指導者の指導・監督の下、理学療法評価からプログラム実施までの一連の理学療法プロセスを経験する。また、対象者の経過観察を行い、介入前後での比較を分析することができる。
- 専任教員が適宜訪問し、学生の実習態度や実習目標達成度を把握する。専任教員が訪問した時には、実習指導者や学生から実習の進捗状況について確認する。また、事前に問題が発生した場合には、指導者から専任教員へ連絡をしてもらい、問題解決に向けたディスカッションの時間を設ける。
- 臨床現場での実習時間は8時間/日だが、1時間/日は対象者に関する振り返り時間とする。
- 実習前と実習後に実技評価を行い、学習効果を確認する。

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
必要な教材に関しては自分で準備をする。	実習目標の到達度 実習前と実習後の実技評価 報告会等による評価		各臨床実習指導者の評価と学内成績のトータルで判断する。

回	テ ー マ	内 容
---	-------	-----

作成者: 松本 昇

科 目 名	学科／学年	年度／時期	授業形態
臨床実習Ⅲ-②	理学療法科／3年	2025／前期	外部実習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択
	1回	8単位（360時間）	必須
			森下 正憲（実務経験有） 竹村 繭美（実務経験有） 兼八 勇治（実務経験有） 川崎昭浩（実務経験有）

授 業 の 概 要

臨床実習Ⅱと同様に、臨床場面の実態を知り、専門家としての心構えと基本的なスキルの獲得を目指す。また、理学療法の評価・治療までの一連の流れを経験できる。

【実務経験】松本昇（病院勤務）、竹村繭美（病院勤務）、兼八勇治（病院勤務）、井崎義己（病院・施設勤務）

授業終了時の到達目標

臨床実習指導者の指導・監督の下、理学療法評価からプログラム実施までの一連の理学療法プロセスを経験する。また、対象者の経過観察を行い、介入前後での比較を分析することができる。

授業計画

1. 施設

実習施設：学生自身の希望を参考に科内協議した施設

実習期間：1回

2. 臨床実習

- 臨床実習指導者の指導・監督の下、理学療法評価からプログラム実施までの一連の理学療法プロセスを経験する。また、対象者の経過観察を行い、介入前後での比較を分析することができる。
- 専任教員が適宜訪問し、学生の実習態度や実習目標達成度を把握する。専任教員が訪問した時には、実習指導者や学生から実習の進捗状況について確認する。また、事前に問題が発生した場合には、指導者から専任教員へ連絡をしてもらい、問題解決に向けたディスカッションの時間を設ける。
- 臨床現場での実習時間は8時間/日だが、1時間/日は対象者に関する振り返り時間とする。
- 実習前と実習後に実技評価を行い、学習効果を確認する。

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
必要な教材に関しては自分で準備をする。	実習目標の到達度 実習前と実習後の実技評価 報告会等による評価		各臨床実習指導者の評価と学内成績のトータルで判断する。

回	テ ー マ	内 容
---	-------	-----

作成者: 松本 昇

科 目 名	学科／学年	年度／時期	授業形態
地域理学療法実習	理学療法科／3年	2025／後期	外部実習
授業時間	回数	単位数（時間数）	必須・選択
	1単位（40時間）	必須	松本昇（実務経験有）

授 業 の 概 要

理学療法士の職域は病院・施設に留まらず、多岐にわたって活躍の場は広がっています。地域で暮らす高齢者や障害者を支援する理学療法士の在り方について、病院・施設への演習を通じて理解を深めます。

【実務経験】松本昇（病院勤務）

授業終了時の到達目標

地域で働く理学療法士の役割を理解することができる。また、地域で生活する対象者の総合的な支援について説明することができる。

授業計画

1. 施設

実習施設：学生自身が選択した医療・介護等施設

実習時間：40時間

実習形態：医療・介護等施設から指定された日に当該施設の理学療法場面を見学しに行く。
また、必要な支援を行う。

教科書・教材	評価基準	評価率	その他
特になし	レポート課題	100%	